

レインボークラス等に関するアンケート調査

結果報告書

令和2年7月

富田林市

アンケート実施概要

- 目的：レインボーバスを含む地域公共交通に関する考え方などを把握するための基礎資料とするため
- 調査期間：令和2年1月8日～2月4日
- 調査方法：市内駅及びその周辺、公共施設、レインボーバス停留所での直接配布
- 配布部数：2,000部
- 配布方法：道路交通課職員による手渡し
- 回収方法：郵送、公共施設内回収箱
- 提出期限：令和2年2月17日

調査結果の数値について

- ※回答結果の「割合（％）」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります、分析文、グラフ、表においても同様となっています。
- ※複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ※図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ※図表中の「M A（multi answer）」は、複数回答の設問における、回答総数を表しています。

アンケート回答率

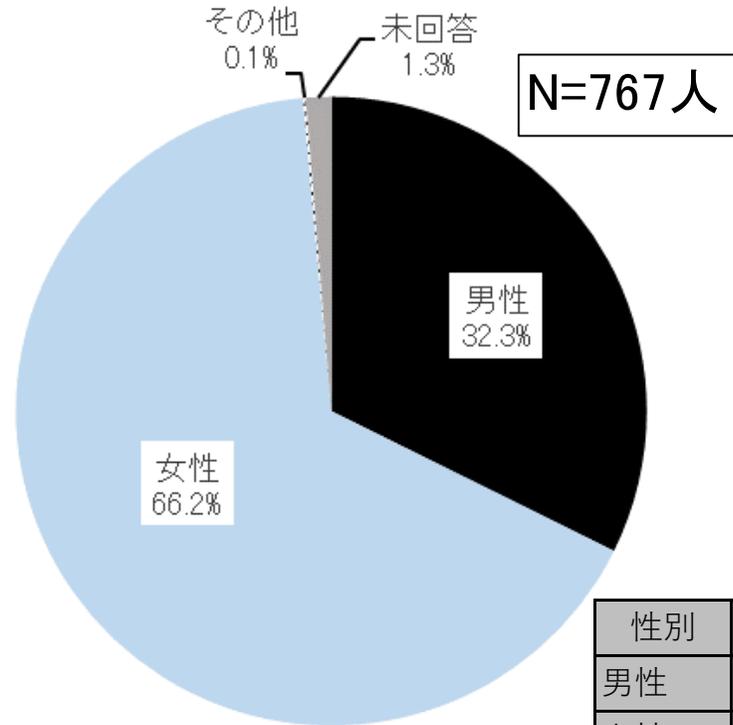
配布2,000人に対し38%の767人から回答があった。
レインボーバス分では400人に対し55%の219人から回答があった。

配布場所	配布部数	回答部数	回答率[%]
富田林駅	300	71	24%
金剛駅	400	154	39%
喜志駅	200	54	27%
滝谷駅	50	13	26%
滝谷不動駅	50	16	32%
川西駅	50	21	42%
富田林西口駅	50	15	30%
中央公民館・図書館	45	22	49%
金剛公民館・図書館	45	28	62%
かがりの郷	40	15	38%
総合体育館	40	10	25%
すばるホール	60	19	32%
総合福祉会館	40	24	60%
富田林病院（保健センター）	60	15	25%
けあばる	45	28	62%
サバーファーム	30	9	30%
金剛連絡所	45	17	38%
富田林市役所	50	17	34%
レインボーバス	400	219	55%
合計	2,000	767	38%

問1. 回答者の属性～性別～

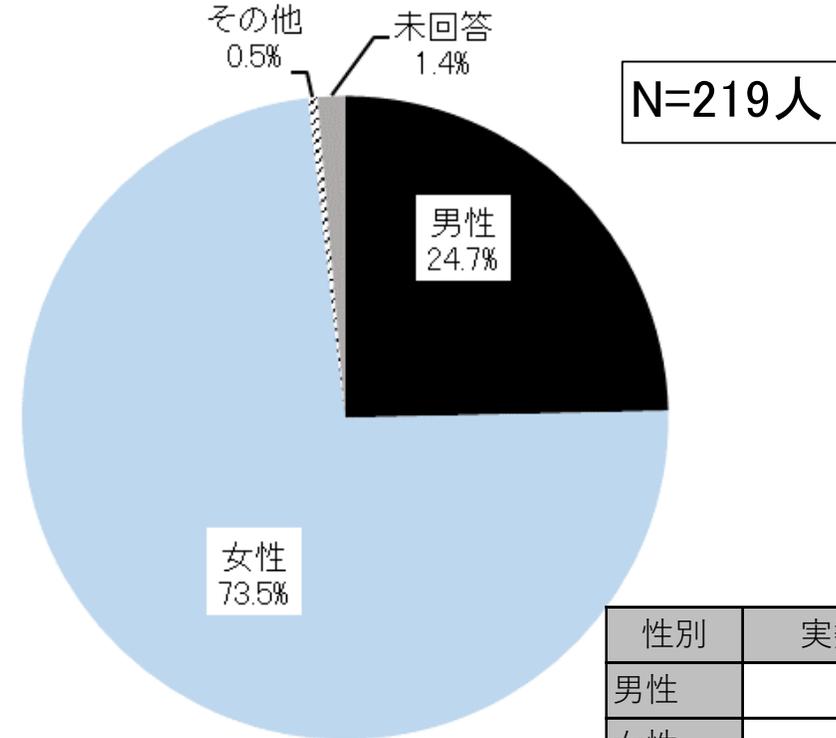
全体、レインボーバス配布分共に回答者の約7割は女性である。

• 全体



性別	実数 (人)	割合
男性	248	32.3%
女性	508	66.2%
その他	1	0.1%
未回答	10	1.3%
N	767	

• レインボーバス配布分

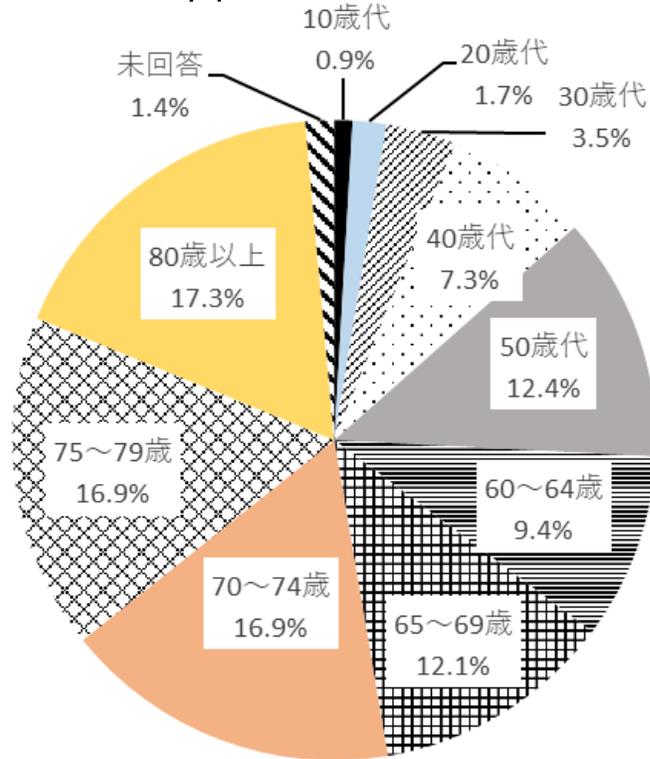


性別	実数 (人)	割合
男性	54	24.7%
女性	161	73.5%
その他	1	0.5%
未回答	3	1.4%
N	219	

問1. 回答者の属性～年齢～

回答者の大半は60歳以上である。

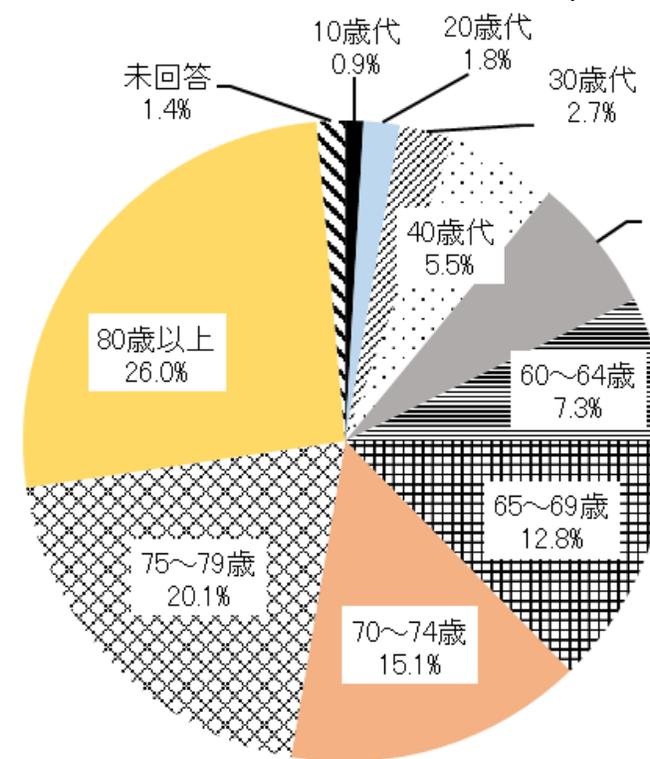
• 全体



N=767人

年齢	実数 (人)	割合
10歳代	7	0.9%
20歳代	13	1.7%
30歳代	27	3.5%
40歳代	56	7.3%
50歳代	95	12.4%
60～64歳	72	9.4%
65～69歳	93	12.1%
70～74歳	130	16.9%
75～79歳	130	16.9%
80歳以上	133	17.3%
未回答	11	1.4%
N	767	

• レインボーバス配布分



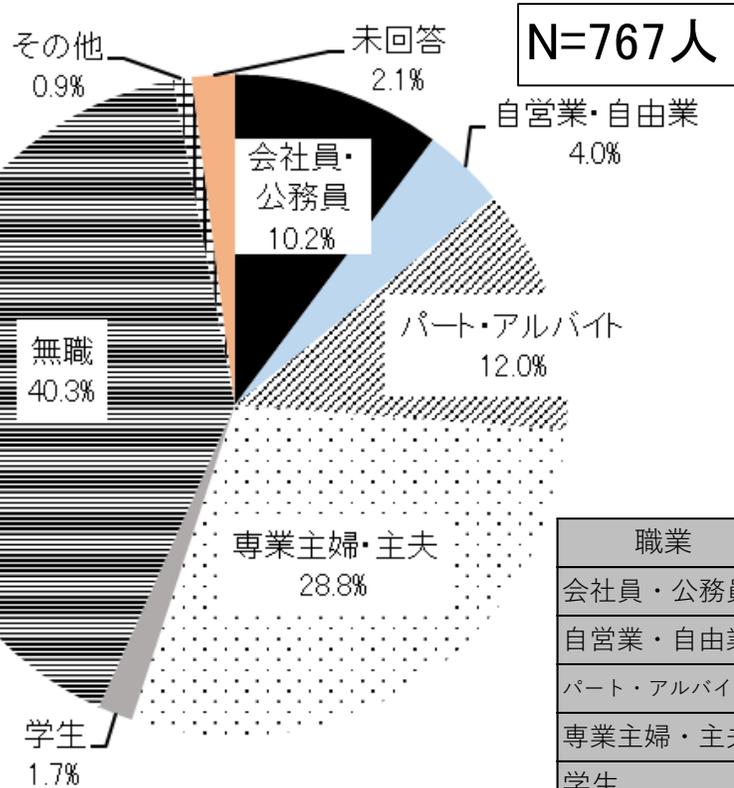
N=219人

年齢	実数 (人)	割合
10歳代	2	0.9%
20歳代	4	1.8%
30歳代	6	2.7%
40歳代	12	5.5%
50歳代	15	6.8%
60～64歳	16	7.3%
65～69歳	28	12.8%
70～74歳	33	15.1%
75～79歳	44	20.1%
80歳以上	57	26.0%
未回答	2	1.4%
N	219	

問1. 回答者の属性～職業～

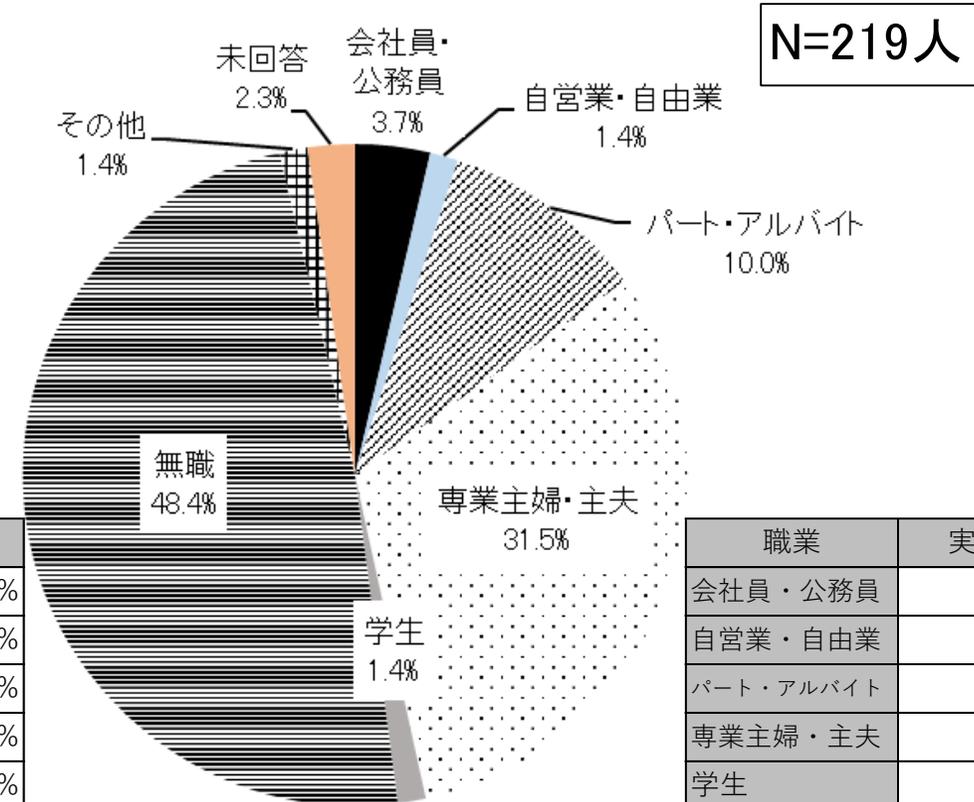
回答者の大半が高齢者であるため、無職の人が多くなっている。

・全体



職業	実数 (人)	割合
会社員・公務員	78	10.2%
自営業・自由業	31	4.0%
パート・アルバイト	92	12.0%
専業主婦・主夫	221	28.8%
学生	13	1.7%
無職	309	40.3%
その他	7	0.9%
未回答	16	2.1%
N	767	

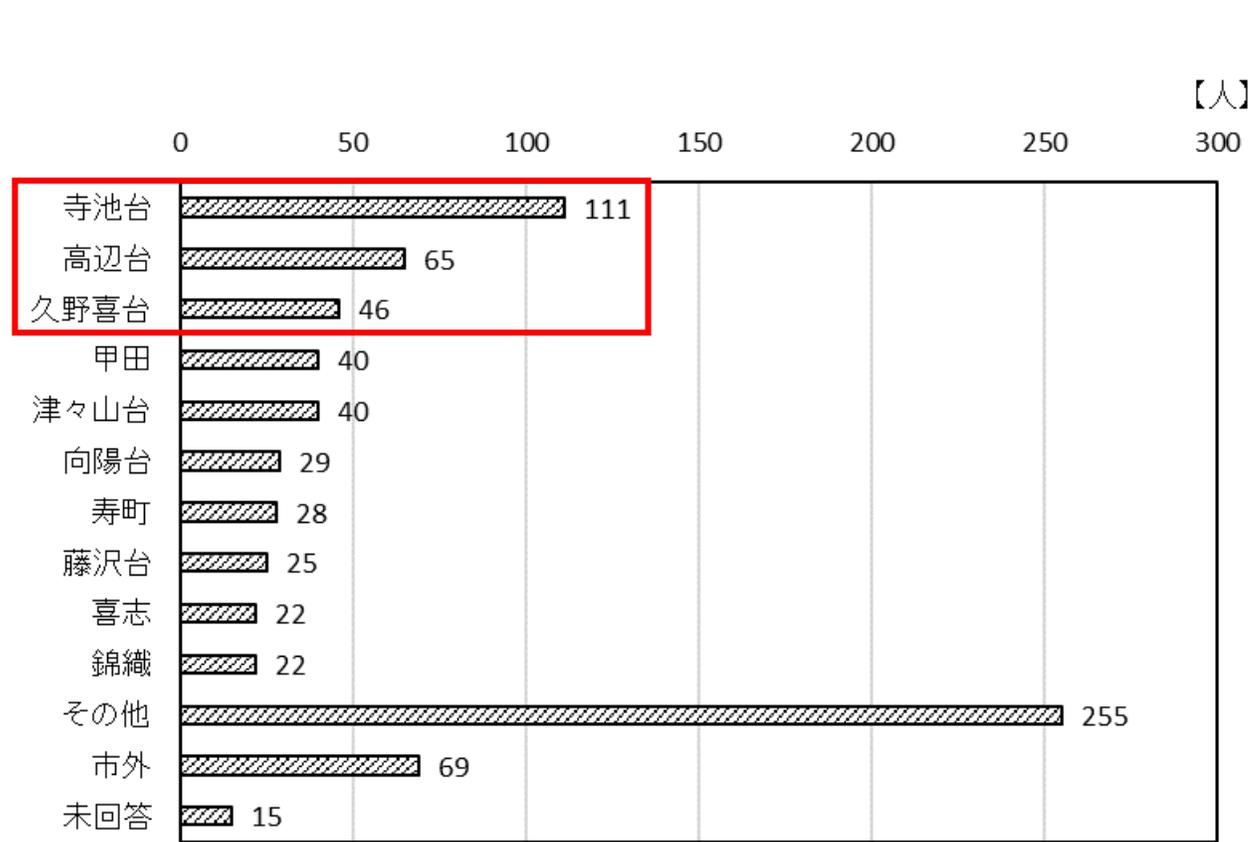
・レインボーバス配布分



職業	実数 (人)	割合
会社員・公務員	8	3.7%
自営業・自由業	3	1.4%
パート・アルバイト	22	10.0%
専業主婦・主夫	69	31.5%
学生	3	1.4%
無職	106	48.4%
その他	3	1.4%
未回答	5	2.3%
N	219	

問1. 回答者の属性～住まい～

「寺池台」、「高辺台」、「久野喜台」といった金剛方面の回答者が多い。
約1割の回答者が市外在住の人である。



N=767人

市内	
寺池台	111
高辺台	65
久野喜台	46
甲田	40
津々山台	40
向陽台	29
寿町	28
藤沢台	25
喜志	22
錦織	22
その他	255
計	683

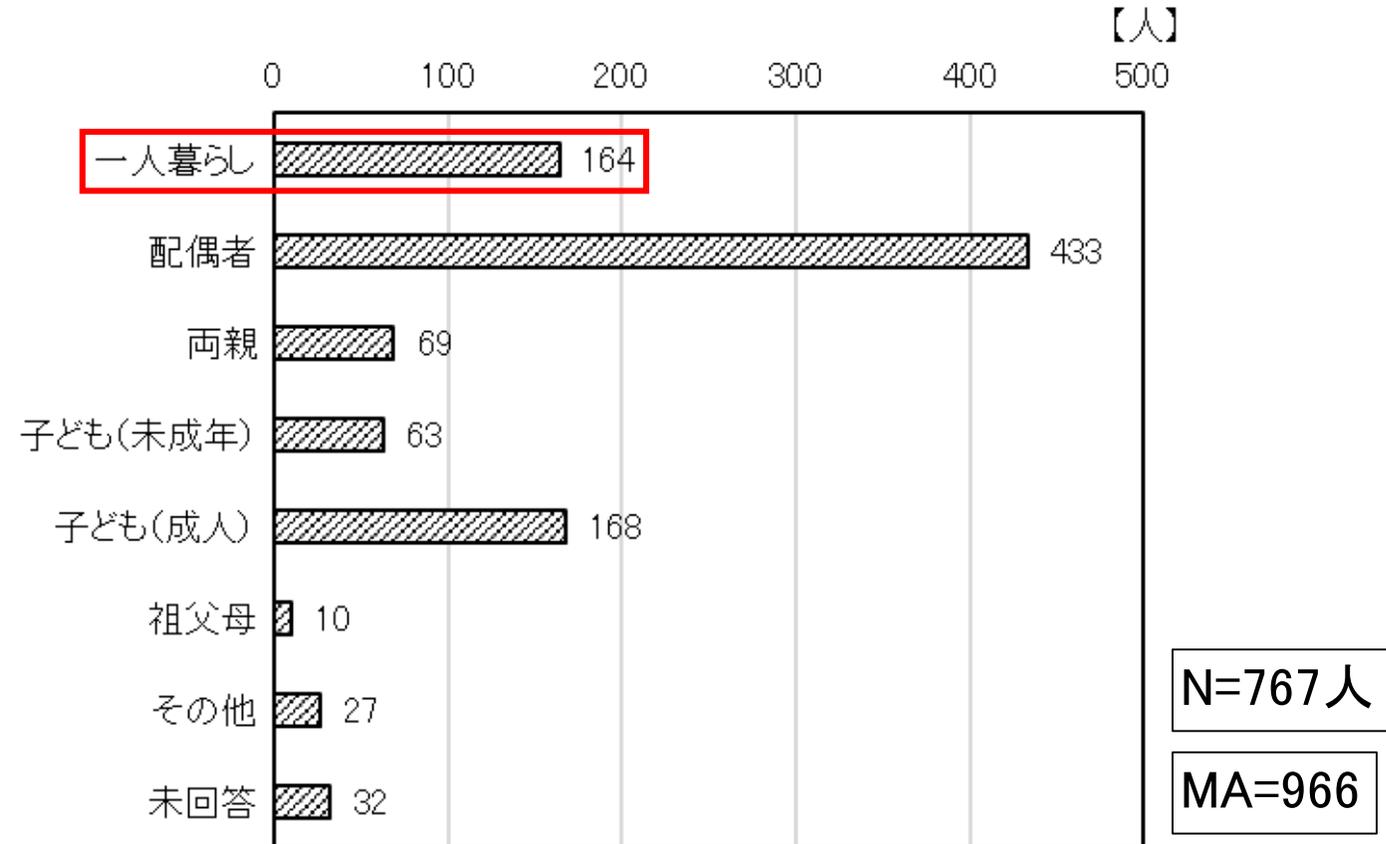
市外	
大阪狭山市	19
河南町	10
河内長野市	8
大阪市	6
堺市	6
太子町	5
千早赤阪村	4
羽曳野市	3
藤井寺市	2
和泉市	1
柏原市	1
摂津市	1
高槻市	1
橋本市	1
八尾市	1
計	69

未回答	15
-----	----

合計	767
----	-----

問1. 回答者の属性～家族構成～

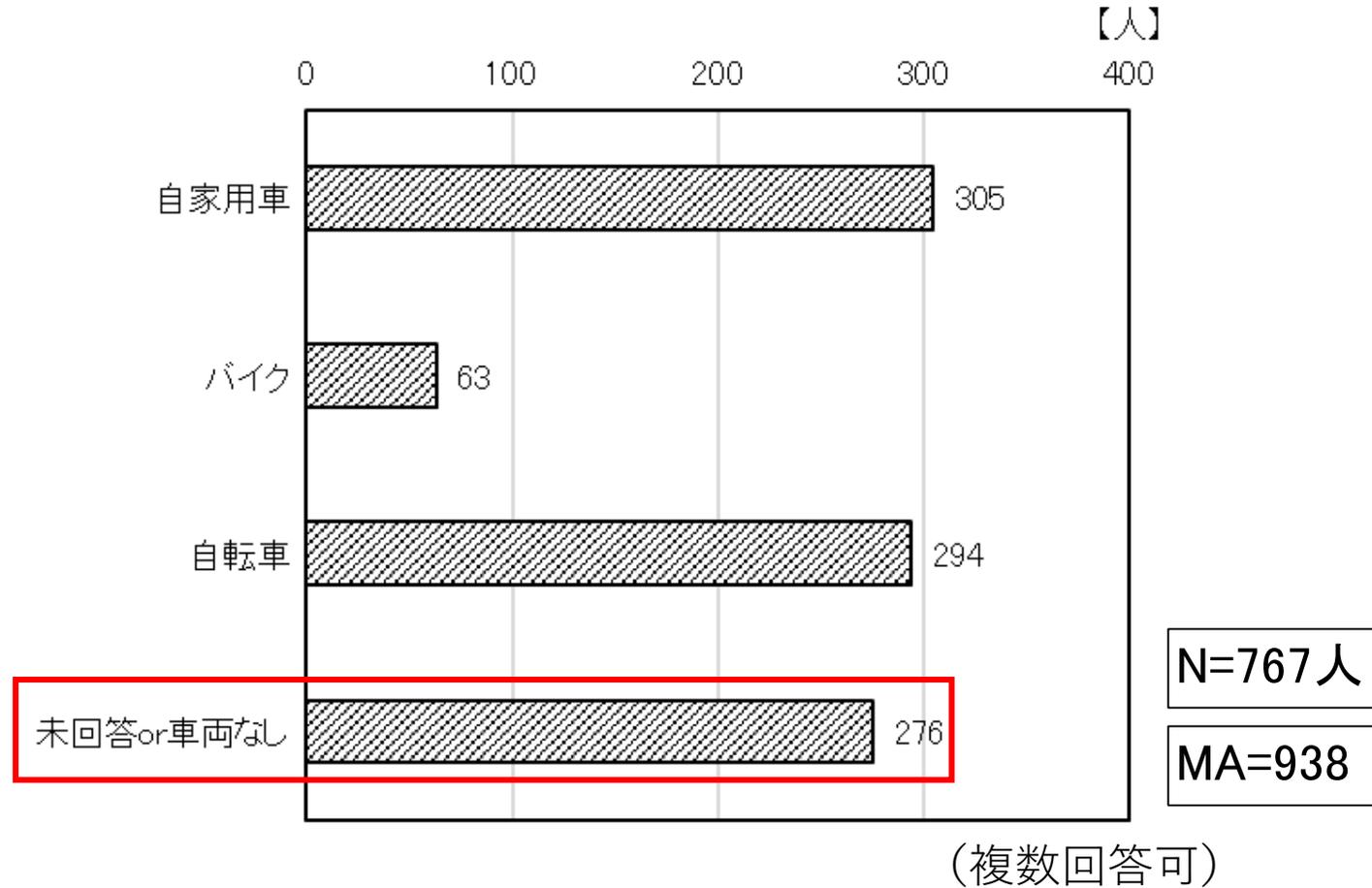
回答者767人の内、約2割の164人が「一人暮らし」である。



(複数回答可)

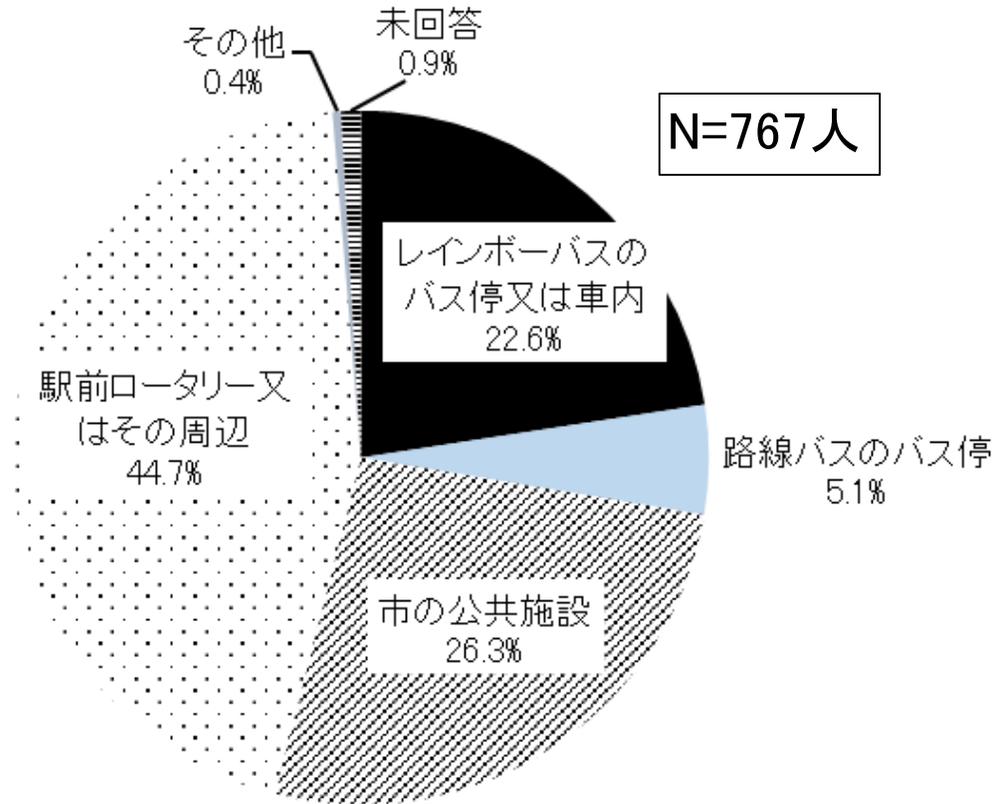
問1. 回答者の属性～自身が自由に使える車両～

自身が自由に使える車両に記載がないのが回答者767人に対し、約4割の276人である。



問2. アンケート受け取り場所

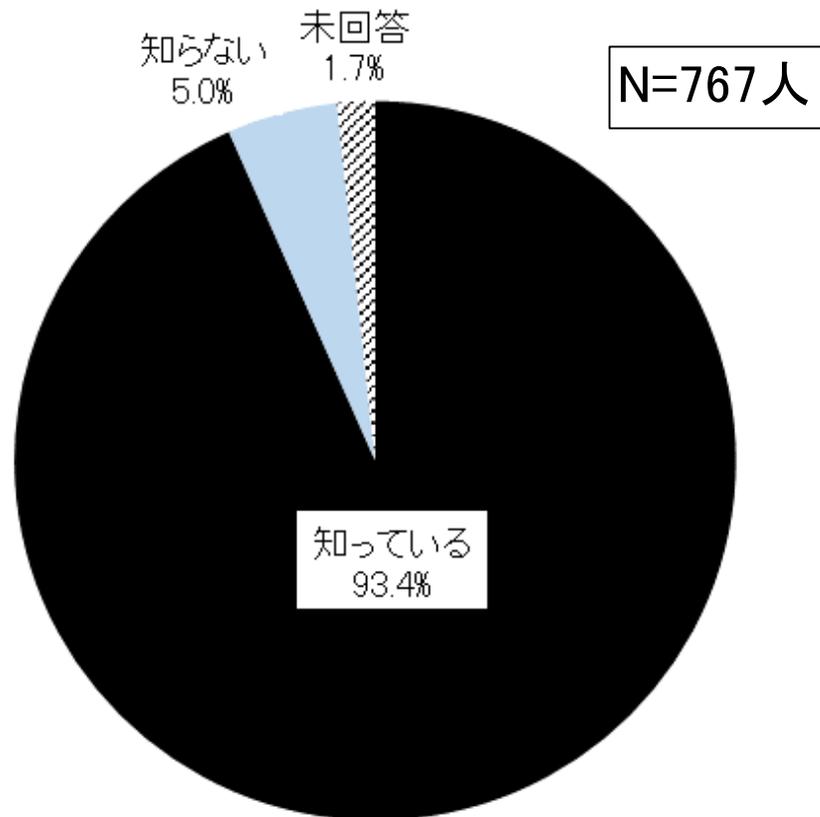
「駅前ロータリー又その周辺」で受け取った人が半数を占めており、「レインボーバスのバス停又は車内」を合わせると約7割を占める。



	実数（人）	割合
レインボーバスのバス停又は車内	173	22.6%
路線バスのバス停	39	5.1%
市の公共施設	202	26.3%
駅前ロータリー又はその周辺	343	44.7%
その他	3	0.4%
未回答	7	0.9%
N	767	

問3. レインボーバスを知っているかどうか

約9割の人がレインボーバスを「知っている」ことから、レインボーバスの認知度は非常に高い。



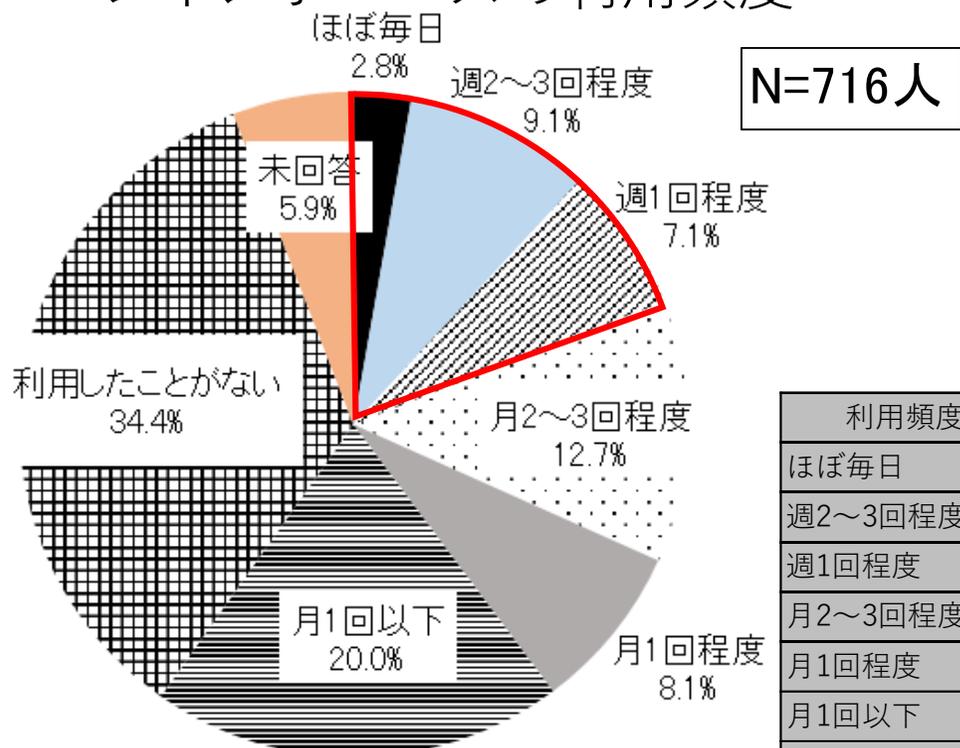
	実数 (人)	割合
知っている	716	93.4%
知らない	38	5.0%
未回答	13	1.7%
N	767	

※ 「知っている」と回答⇒問4
「知らない」と回答⇒問7

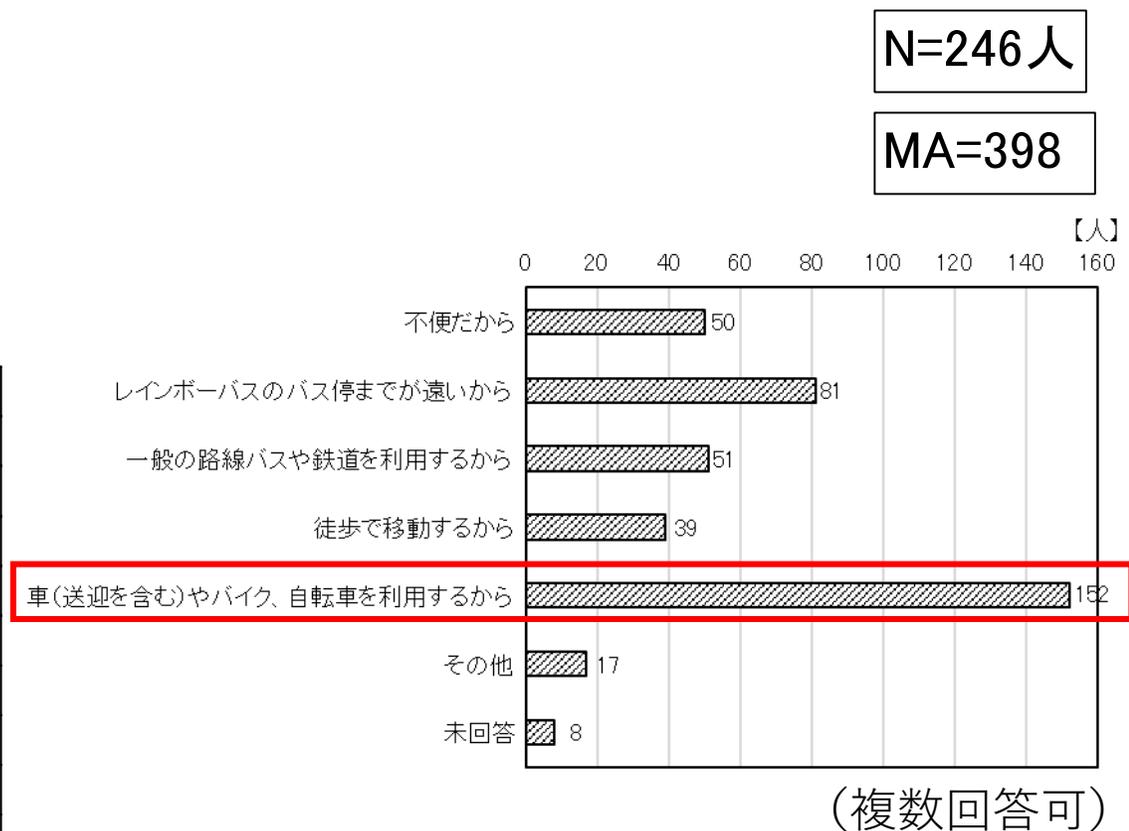
問4. レインボーバスの利用頻度

約2割の人がレインボーバスを週1回以上利用している。
 利用したことがない理由で最も多いのは、「車やバイク、自転車を利用するから」で
 152人が理由に挙げている。

・レインボーバスの利用頻度



・利用したことがない理由

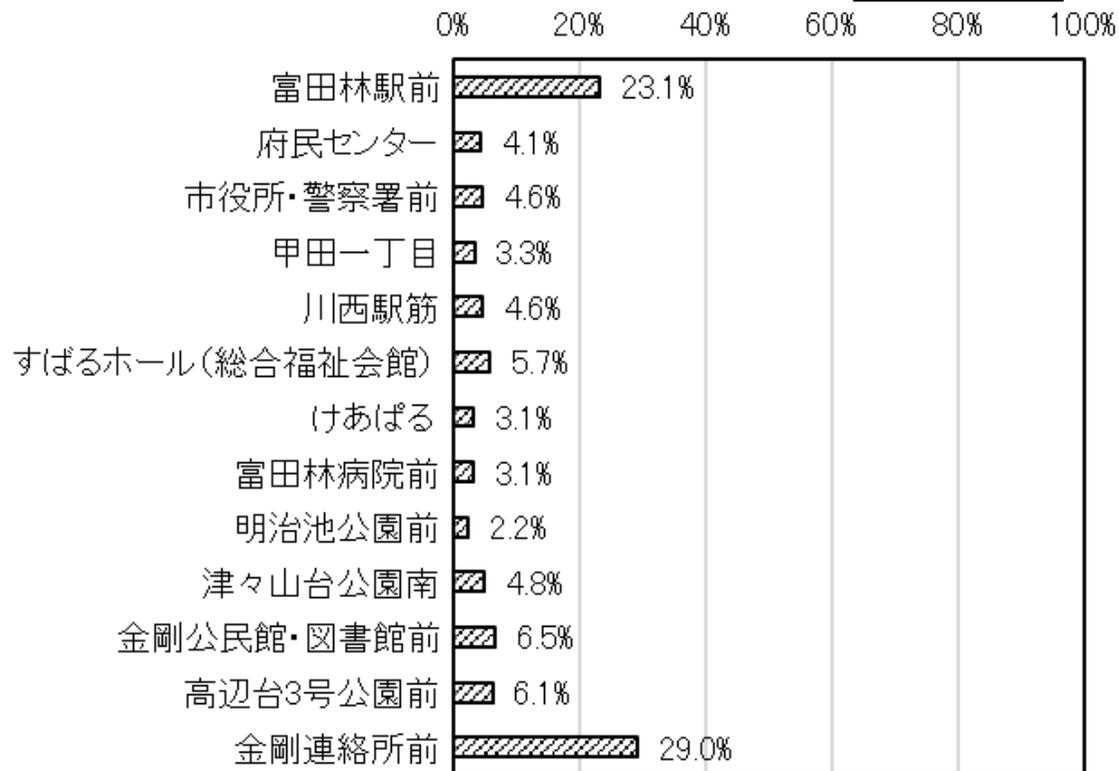


問5. レインボーバスの利用区間

乗降するバス停は始点・終点の「富田林駅前」、「金剛連絡所前」の割合が最も多い。
降車するバス停では、「市役所・警察署前」、「すばるホール」、「富田林病院前」も選ばれている。

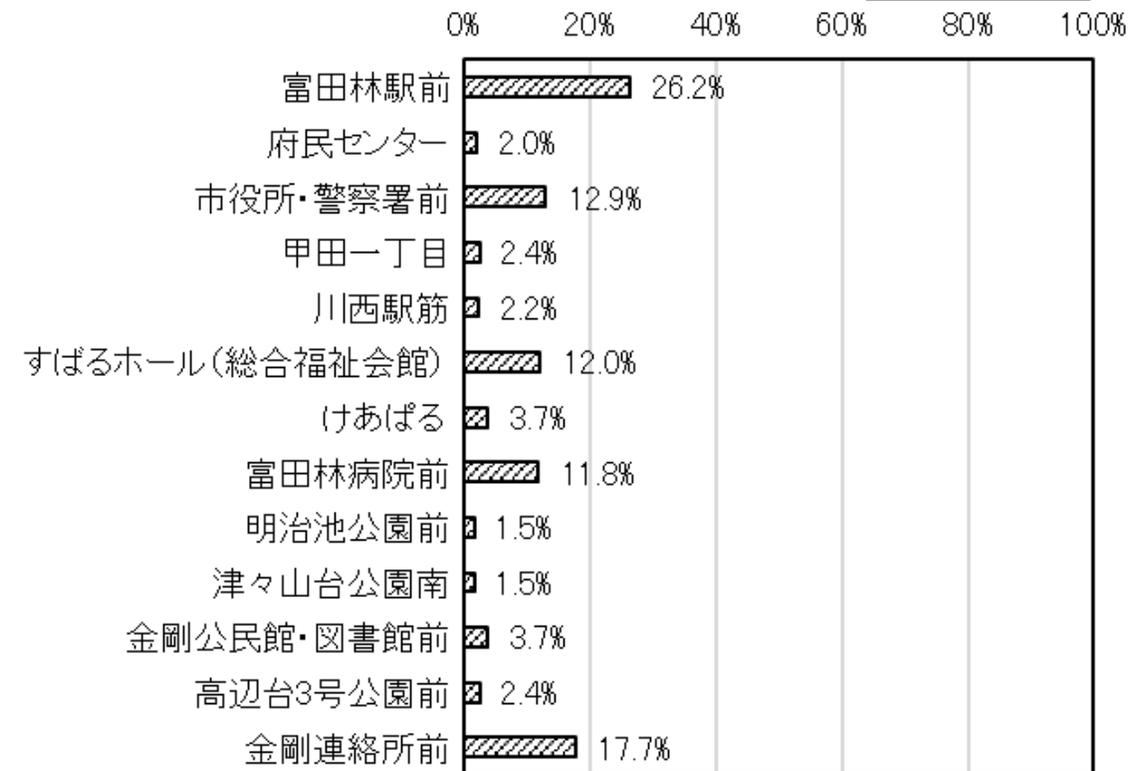
乗車するバス停

N=459人



降車するバス停

N=458人

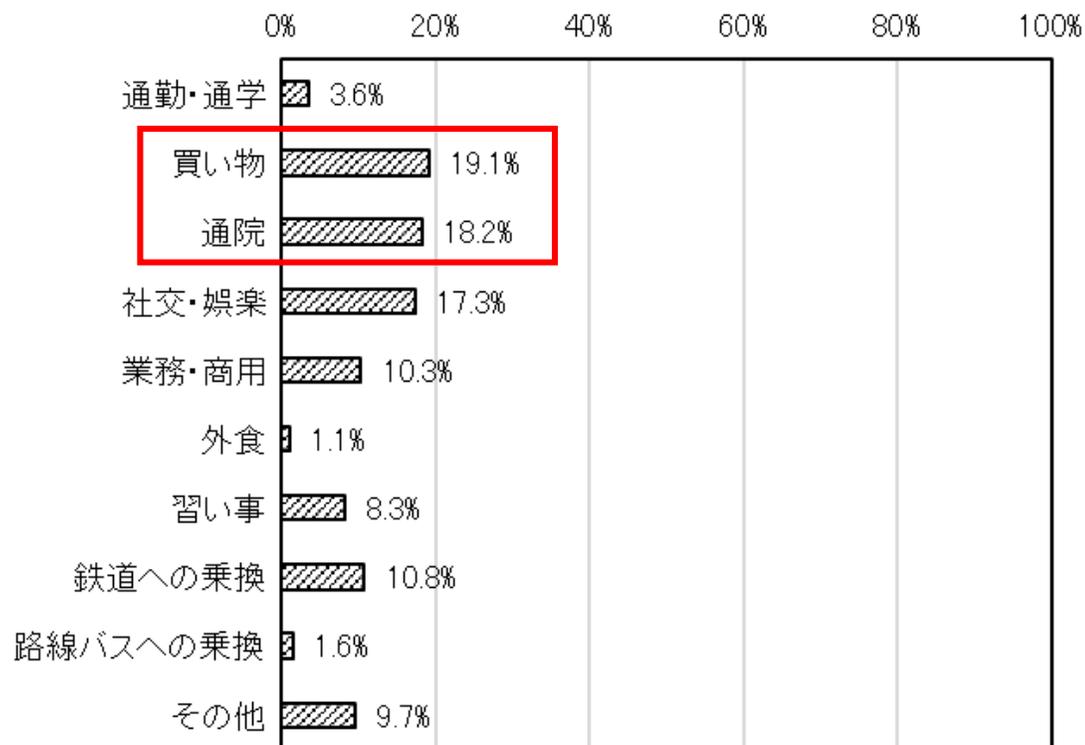


問5. レインボーバスの利用目的・目的地

レインボーバスの利用目的の中で「買い物」、「通院」がともに約2割を占めている。その他の利用目的では、「市役所での手続き」などの利用に加え、様々な幅広い目的で利用されている。
目的地は、バス停近辺の「駅」、「公共施設」、「病院」、「スーパー」が多い。

• 利用目的

N=445人



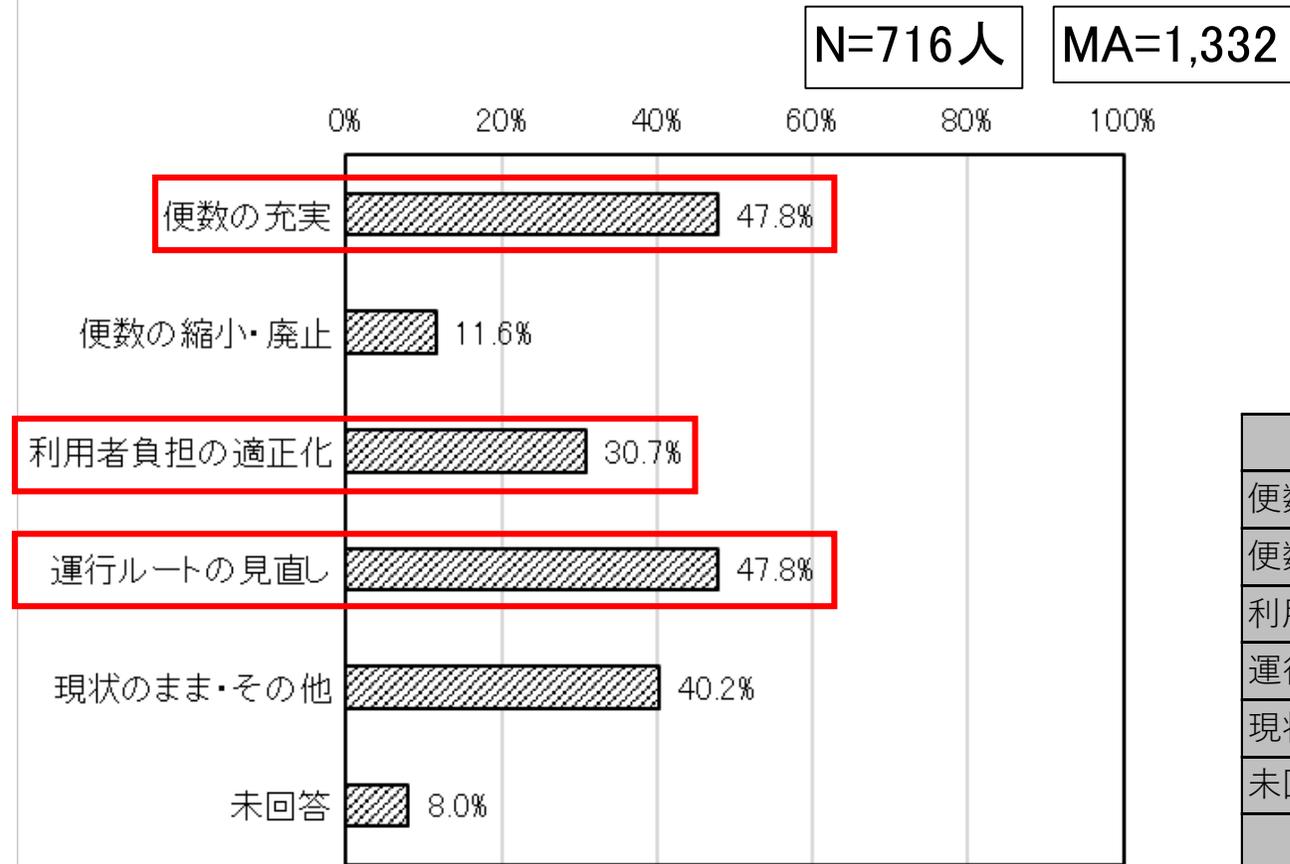
• 目的地

目的地	実数 (人)
富田林市役所	50
すばるホール	38
富田林病院	23
総合福祉会館	20
イオン	15
けあぱる	11
金剛駅	11
中央公民館	10
富田林駅	8
その他	149
合計	335

(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え

レインボーバスに対する考えとして、最も多いのは「便数の充実」と「運行ルートの見直し」であり、ともに回答者の約5割を占め、レインボーバスの充実を求めている人が多いことがわかる。
一方では、利用者負担の適正化が必要と思われる人が約3割を占めている。



	実数 (人)	割合
便数の充実	342	47.8%
便数の縮小・廃止	83	11.6%
利用者負担の適正化	220	30.7%
運行ルートの見直し	342	47.8%
現状のまま・その他	288	40.2%
未回答	57	8.0%
N	716	

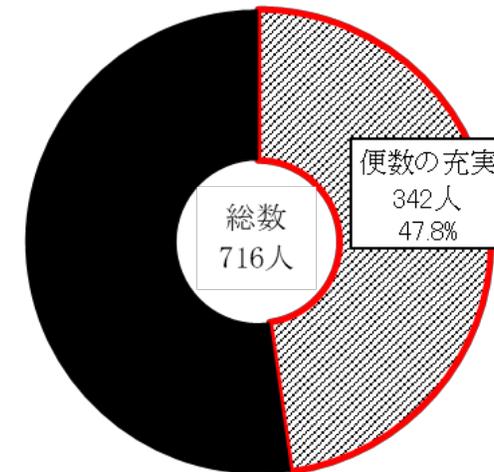
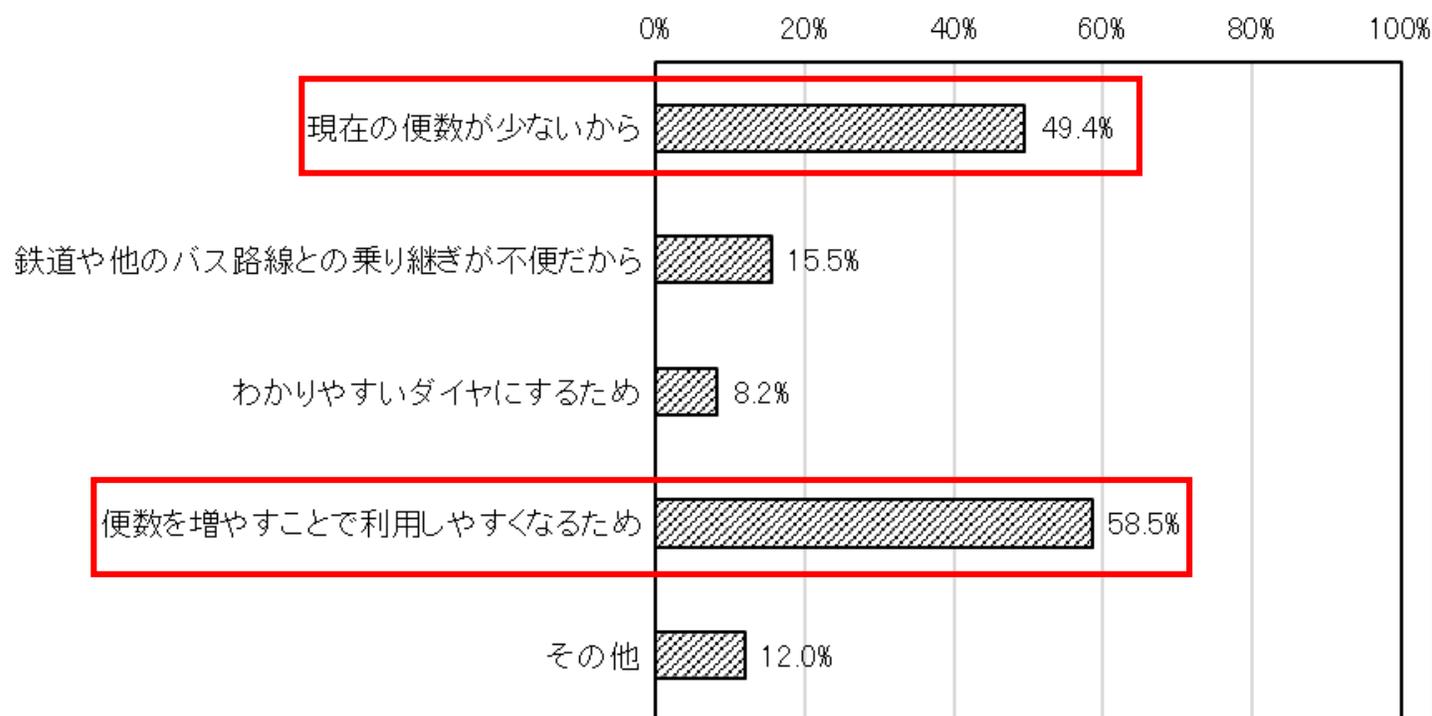
(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え①便数の充実

便数を充実してほしいと考える人の理由で多いのは、「現在の便数が少ないから」、「便数を増やすことで利用しやすくなるため」である。
その他の意見では、「12時台の便の運行」や「最終便の時間を遅くする」などがある。

N=342人

MA=491



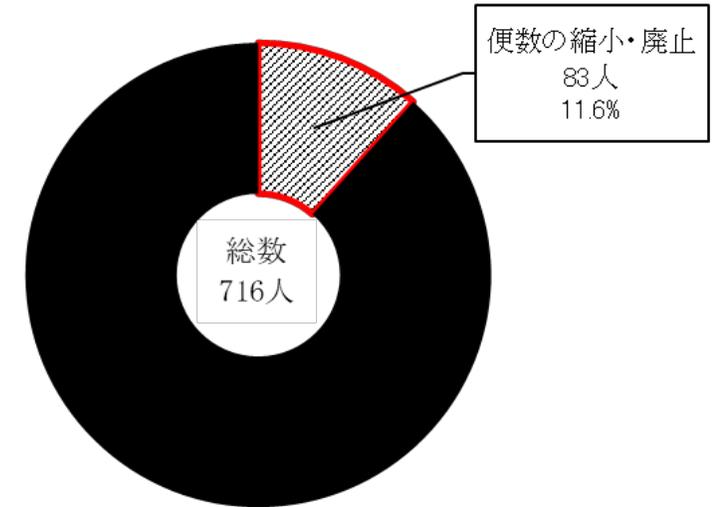
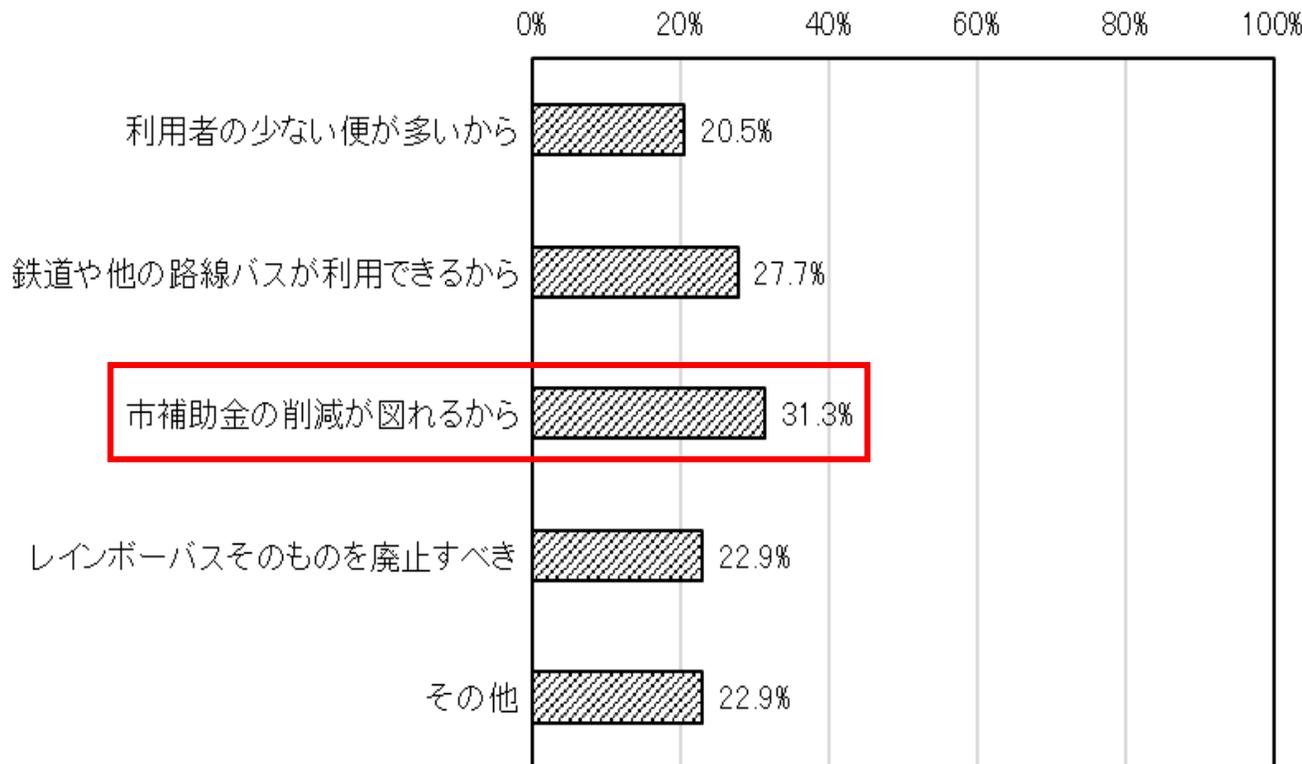
便数の充実	実数 (人)	割合
現在の便数が少ないから	169	49.4%
鉄道や他のバス路線との乗り継ぎが不便だから	53	15.5%
わかりやすいダイヤにするため	28	8.2%
便数を増やすことで利用しやすくなるため	200	58.5%
その他	41	12.0%
N	342	

(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え②便数の縮小・廃止

便数を縮小・廃止してほしいと考える人の理由は満遍なくあるが、「市補助金の削減が図れるから」が最も多くなっている。
 その他の意見では、「ルートから外れたところに住んでおり利用しない・できないから」という意見がある。

N=83人 MA=104



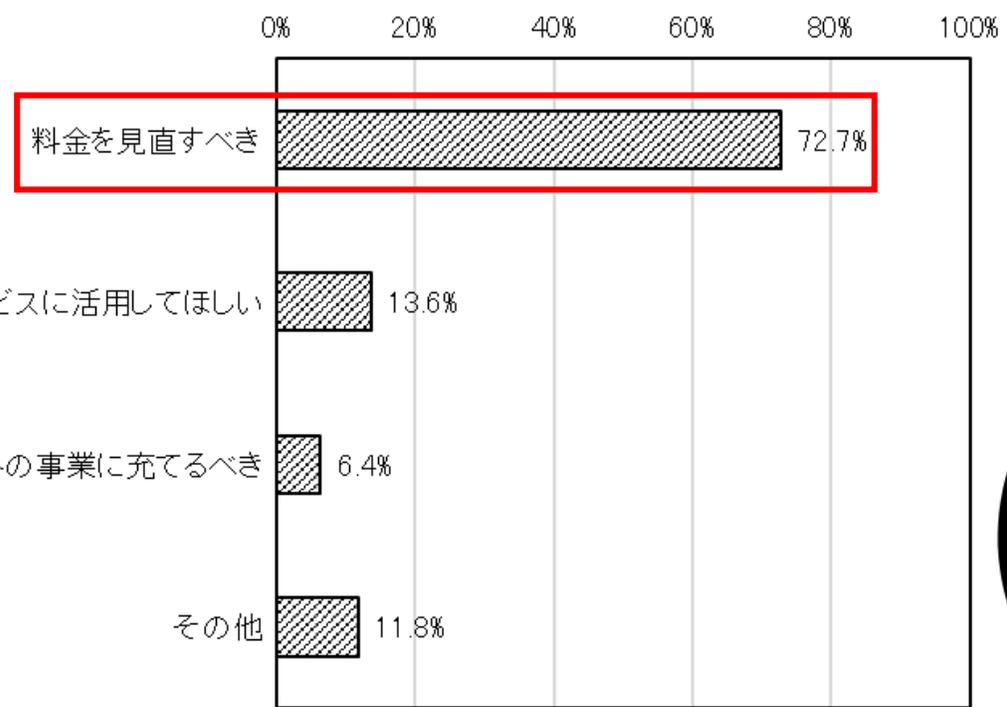
便数の縮小・廃止	実数 (人)	割合
利用者の少ない便が多いから	17	20.5%
鉄道や他の路線バスが利用できるから	23	27.7%
市補助金の削減が図れるから	26	31.3%
レインボーバスそのものを廃止すべき	19	22.9%
その他	19	22.9%
N	83	

(複数回答可)

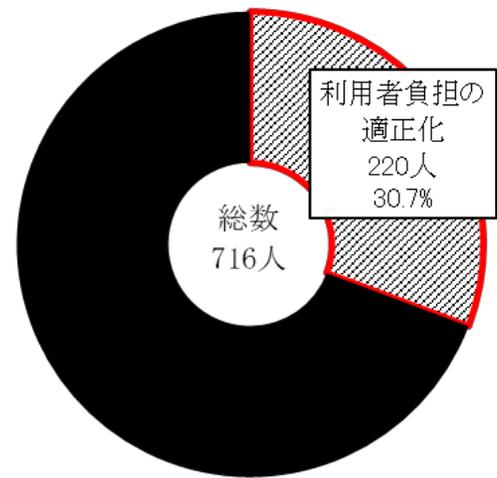
問6. レインボーバスに対する考え③利用者負担の適正化

利用者負担の適正化をしてほしいと考える人の理由の約7割が、「料金を見直すべき」である。
 料金を見直すべきと回答した人の多くは、「150円」、「200円」が適正額と考えており、値上げが必要と考えている。
 その他の意見には、50円や無料が適正であると回答した人もいる。

N=220人 MA=230



利用者負担の適正化	実数 (人)	割合
料金を見直すべき	160	72.7%
市補助金を他の公共交通サービスに活用してほしい	30	13.6%
市補助金を公共交通サービス以外の事業に充てるべき	14	6.4%
その他	26	11.8%
N	220	



適正額	実数 (人)
150円	69
200円	61
250円	9
その他	21

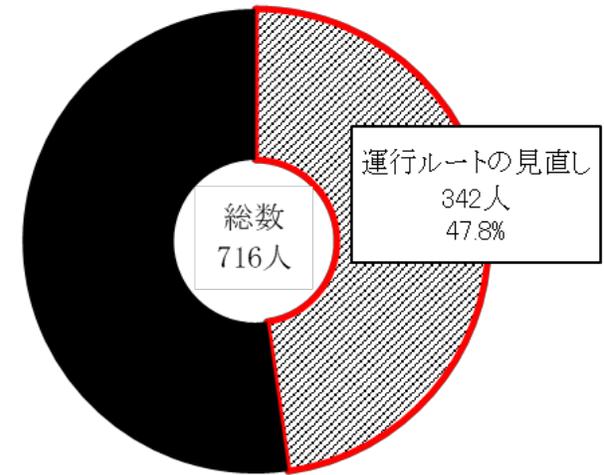
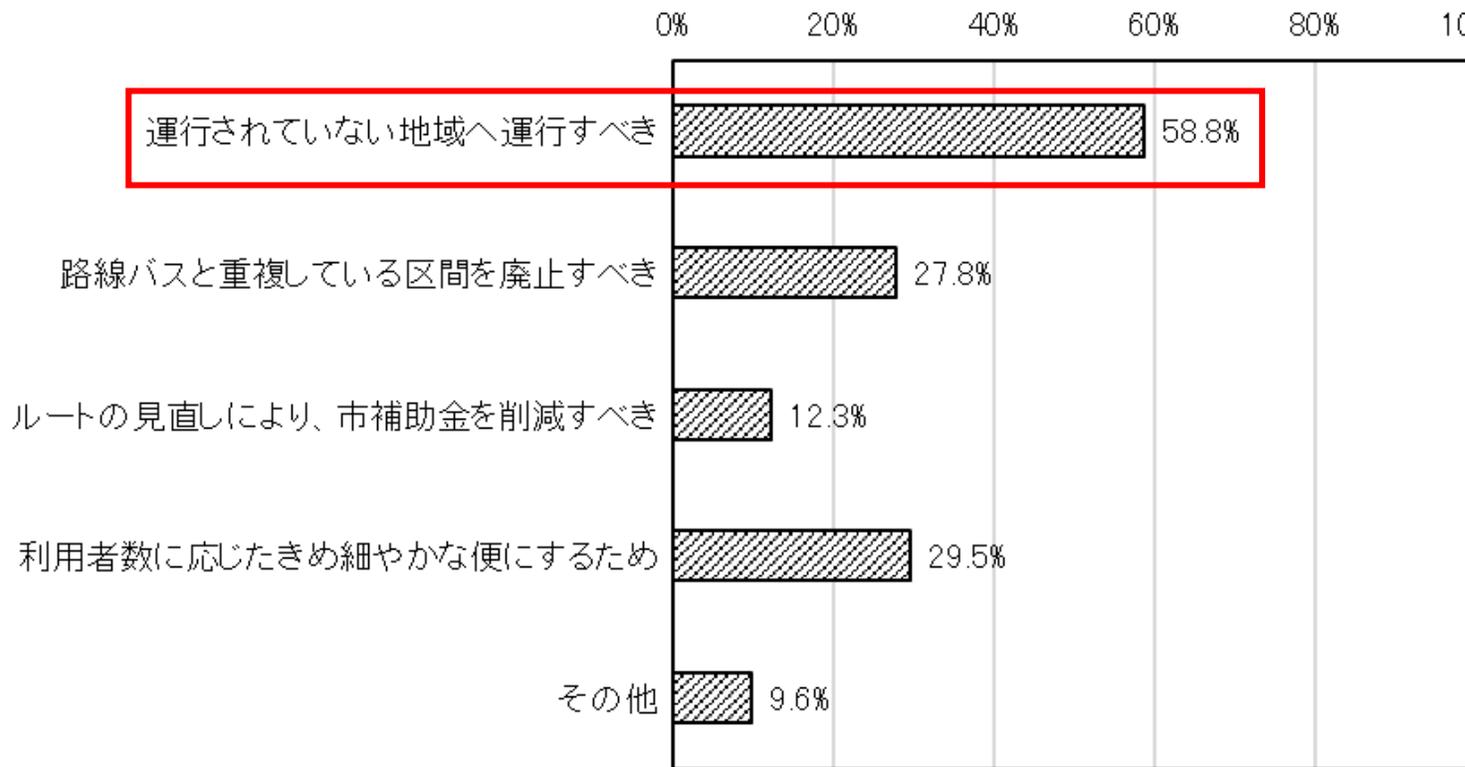
(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え④運行ルートの見直し

運行ルートを見直してほしいと考える人の半数は、「運行されていない地域へ運行すべき」と考えている。
 その他の意見では、「金剛駅までルートを伸ばしてほしい」という意見が多数ある他「運行時間が長いため」、「利便性を高め収入を増加させる」という意見がある。

N=342人

MA=472

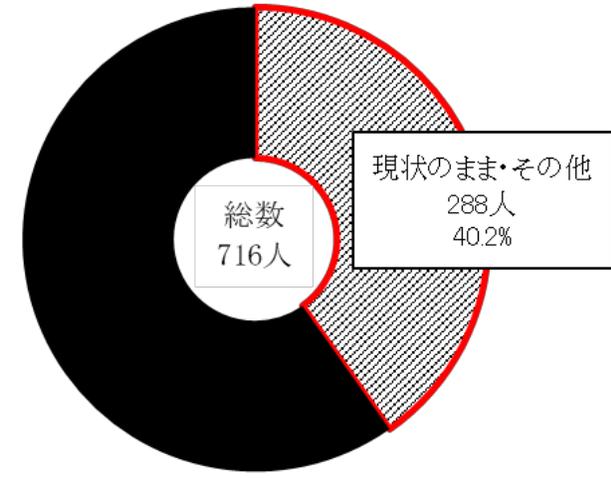
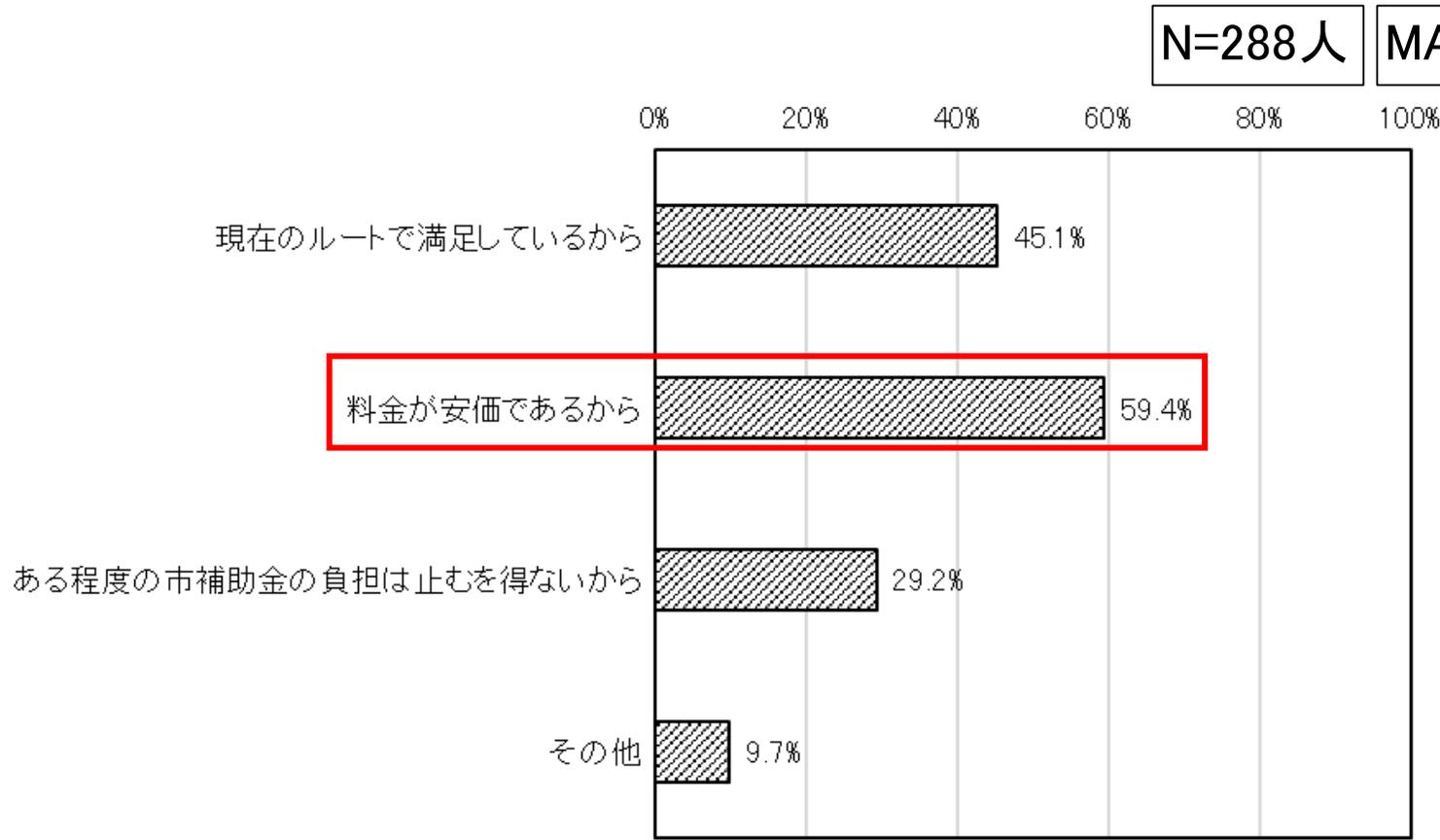


運行ルートの見直し	実数 (人)	割合
運行されていない地域へ運行すべき	201	58.8%
路線バスと重複している区間を廃止すべき	95	27.8%
ルートの見直しにより、市補助金を削減すべき	42	12.3%
利用者数に応じたきめ細やかな便にするため	101	29.5%
その他	33	9.6%
N	342	

(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え⑤現状のまま・その他

現状のままでよいと考える人の半数は、「料金が安価であるから」と考えている。

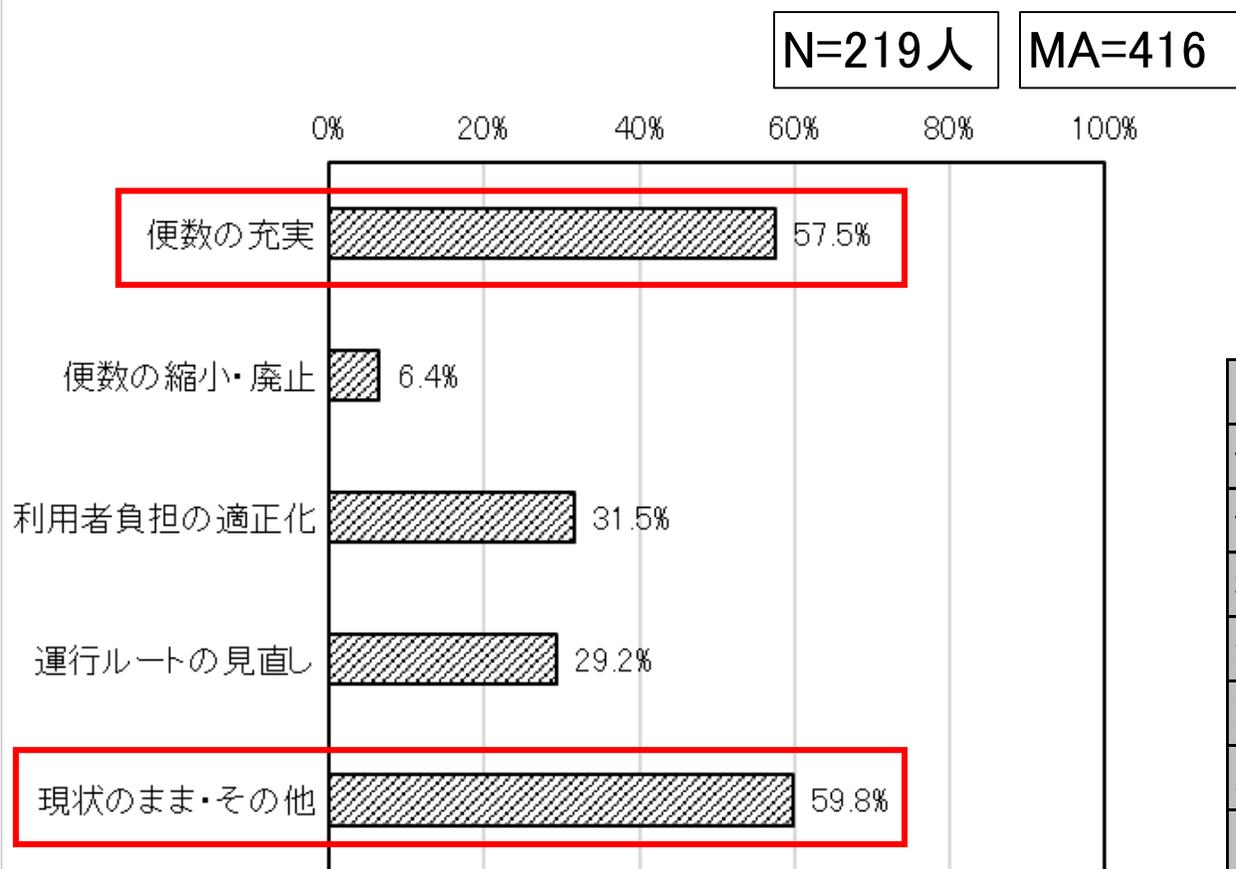


現状のまま・その他	実数 (人)	割合
現在のルートで満足しているから	130	45.1%
料金が安価であるから	171	59.4%
ある程度の市補助金の負担は止むを得ないから	84	29.2%
その他	28	9.7%
N	288	

(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え(レインボーバス配布分)

レインボーバスの利用者でレインボーバスに対する考えとして、最も多いのは「現状のまま・その他」であり、約6割を占めている。
「便数の充実」が次に多く、「便数の縮小・廃止」は少ない。

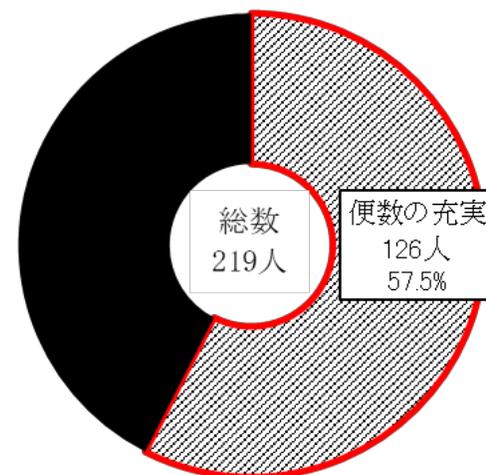
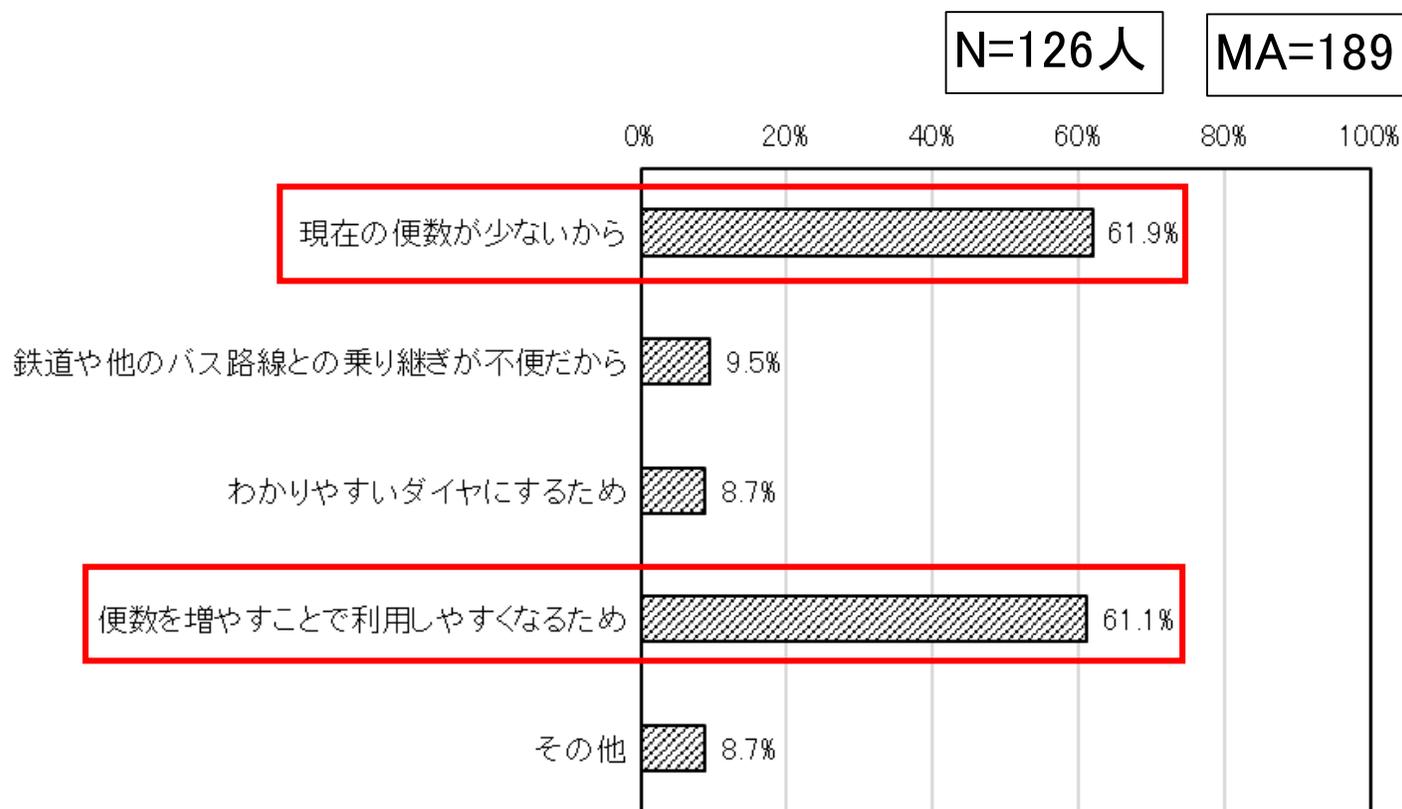


	実数 (人)	割合
便数の充実	126	57.5%
便数の縮小・廃止	14	6.4%
利用者負担の適正化	69	31.5%
運行ルートの見直し	64	29.2%
現状のまま・その他	131	59.8%
未回答	12	5.5%
N	219	

(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え①便数の充実（レインボーバス配布分）

レインボーバスの利用者で便数を充実してほしいと考える人の理由で多いのは、「現在の便数が少ないから」、「便数を増やすことで利用しやすくなるため」であり、それぞれ回答者の約6割を占める。



便数の充実	実数（人）	割合
現在の便数が少ないから	78	61.9%
鉄道や他のバス路線との乗り継ぎが不便だから	12	9.5%
わかりやすいダイヤにするため	11	8.7%
便数を増やすことで利用しやすくなるため	77	61.1%
その他	11	8.7%
N	126	

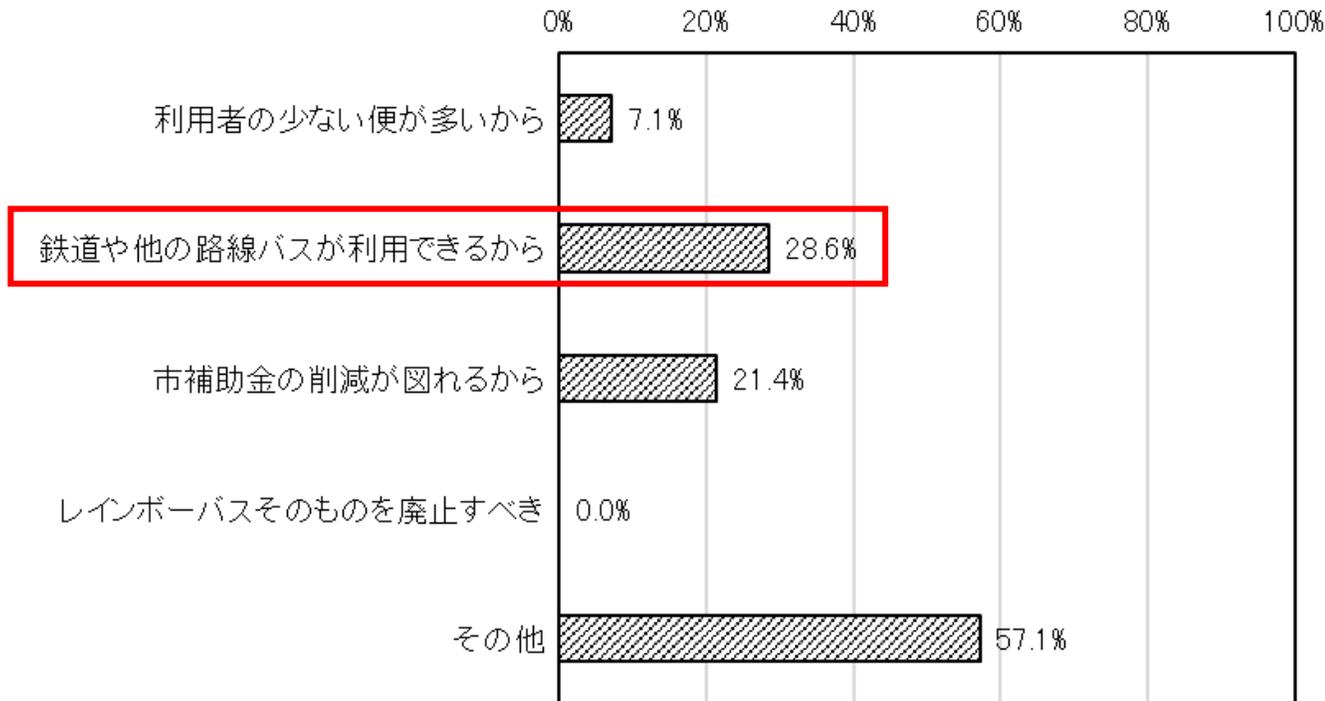
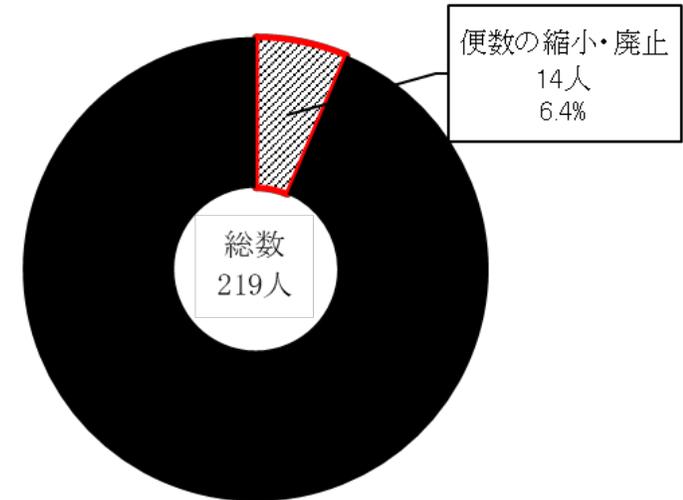
（複数回答可）

問6. レインボーバスに対する考え②便数の縮小・廃止（レインボーバス配布分）

レインボーバスの利用者で便数を縮小・廃止してほしいと考える人は少なく、縮小・廃止してほしいと考える人の理由は、「鉄道や他の路線バスが利用できるから」が最も多い。

N=14人

MA=16



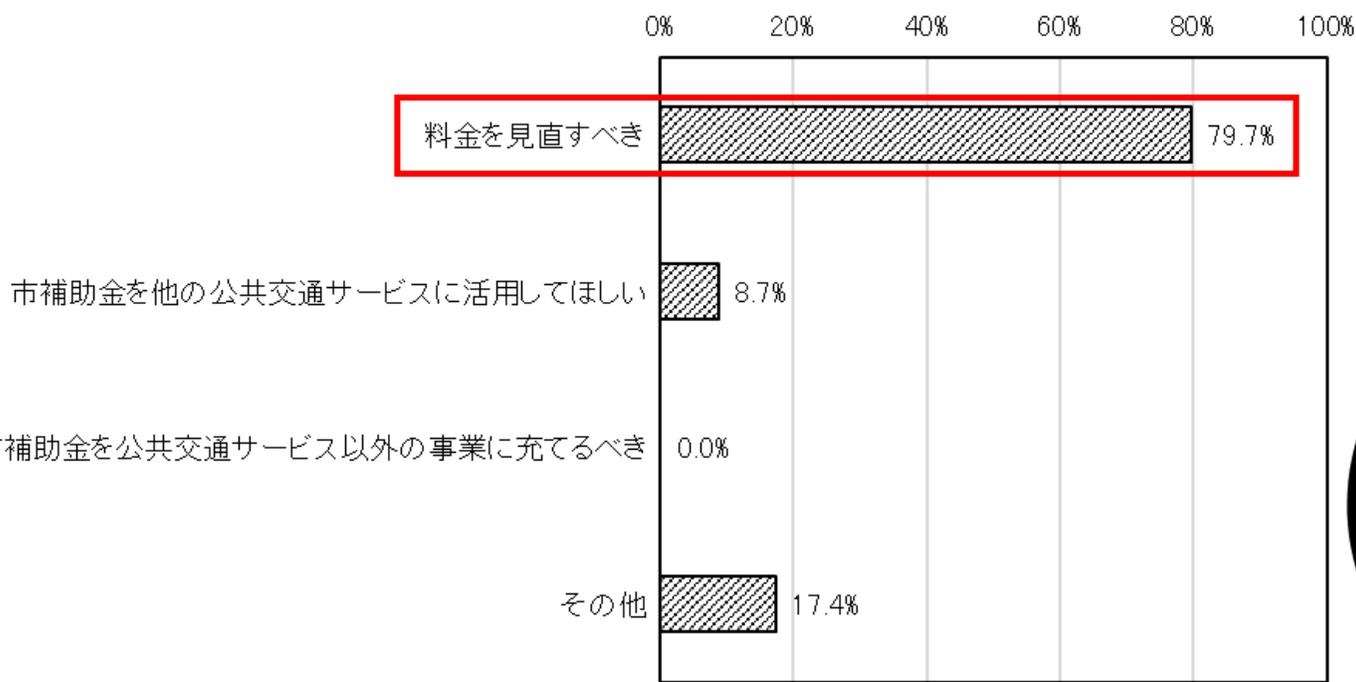
便数の縮小・廃止	実数（人）	割合
利用者の少ない便が多いから	1	7.1%
鉄道や他の路線バスが利用できるから	4	28.6%
市補助金の削減が図れるから	3	21.4%
レインボーバスそのものを廃止すべき	0	0.0%
その他	8	57.1%
N	14	

（複数回答可）

問6. レインボーバスに対する考え③利用者負担の適正化（レインボーバス配布分）

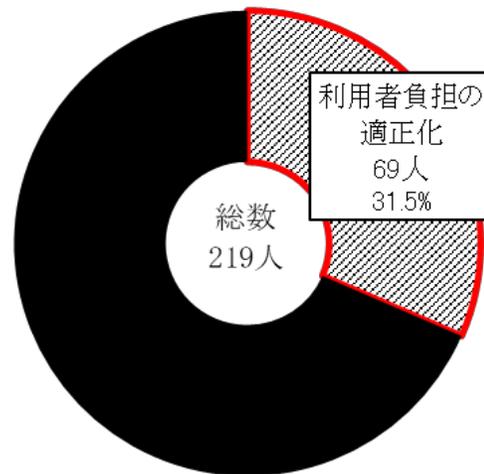
レインボーバスの利用者で利用者負担の適正化をしてほしいと考える人の理由の約8割が、「料金を見直すべき」である。
 料金を見直すべきと回答した人の多くは、「150円」、「200円」が適正額と考えており、値上げが必要と考えている。
 その他の意見には、「乗車距離による料金設定」と回答した人もいる。

N=69人 MA=73



(複数回答可)

利用者負担の適正化	実数 (人)	割合
料金を見直すべき	55	79.7%
市補助金を他の公共交通サービスに活用してほしい	6	8.7%
市補助金を公共交通サービス以外の事業に充てるべき	0	0.0%
その他	12	17.4%
N	69	



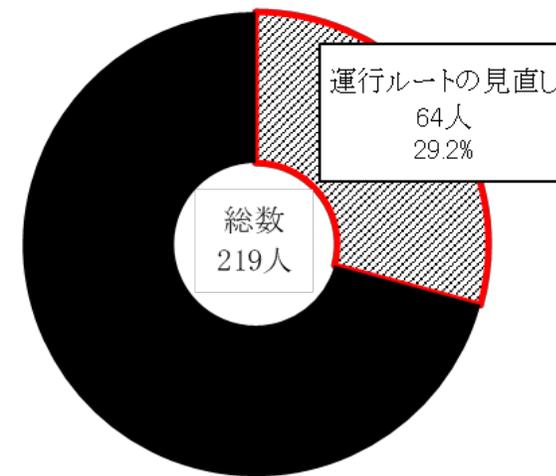
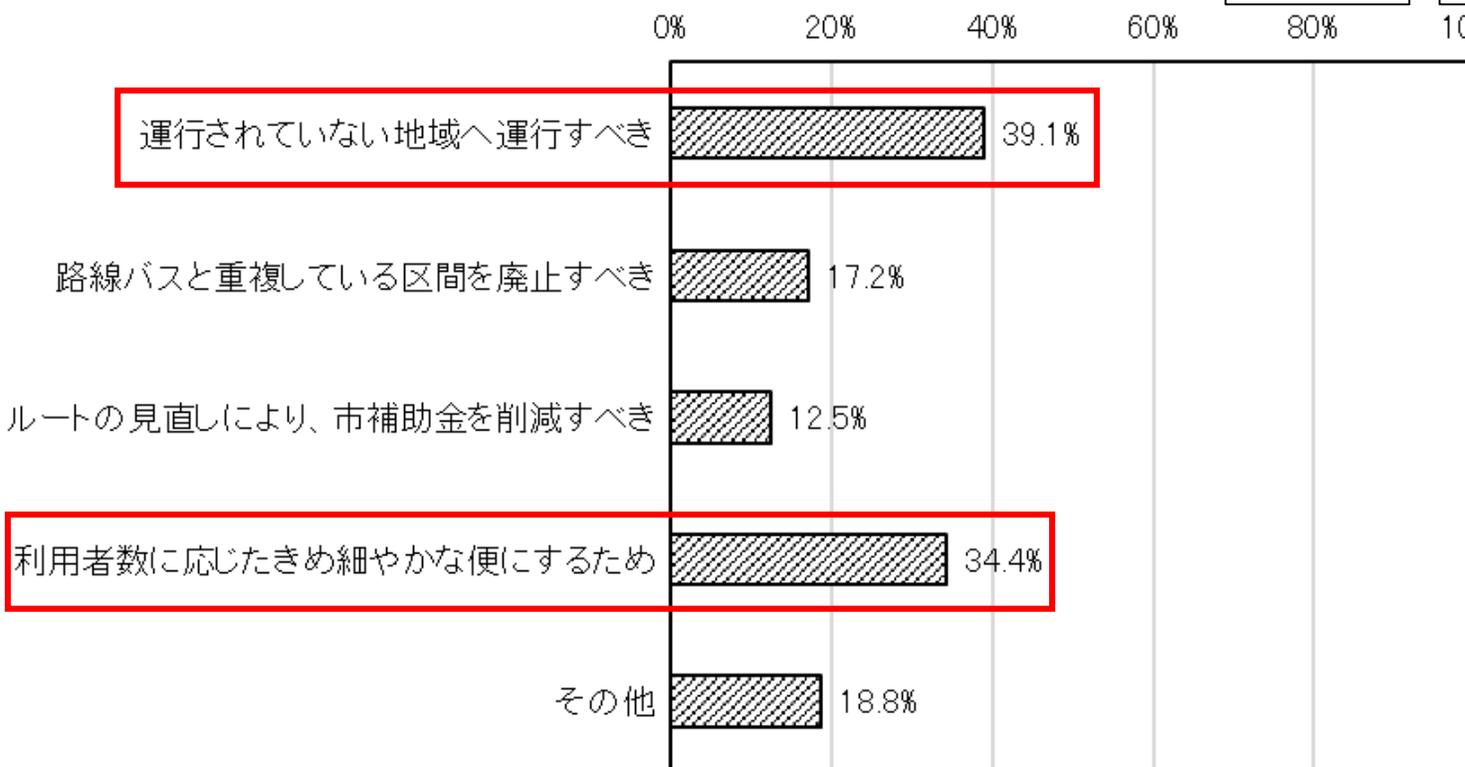
適正額	実数 (人)
150円	24
200円	23
250円	2
その他	6

問6. レインボーバスに対する考え④運行ルートの見直し（レインボーバス配布分）

レインボーバスの利用者で運行ルートを見直してほしいと考える人の理由で最も多いのは、「運行されていない地域へ運行すべき」で約4割を占めている。次に多い理由は「利用者数に応じたきめ細やかな便にするため」で約3割を占めている。その他の意見では、「金剛駅までルートを伸ばしてほしい」という意見が多数ある。

N=64人

MA=78



運行ルートの見直し	実数 (人)	割合
運行されていない地域へ運行すべき	25	39.1%
路線バスと重複している区間を廃止すべき	11	17.2%
ルートの見直しにより、市補助金を削減すべき	8	12.5%
利用者数に応じたきめ細やかな便にするため	22	34.4%
その他	12	18.8%
N	64	

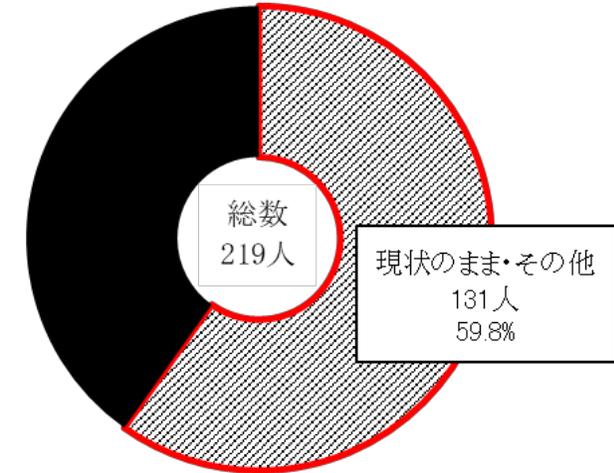
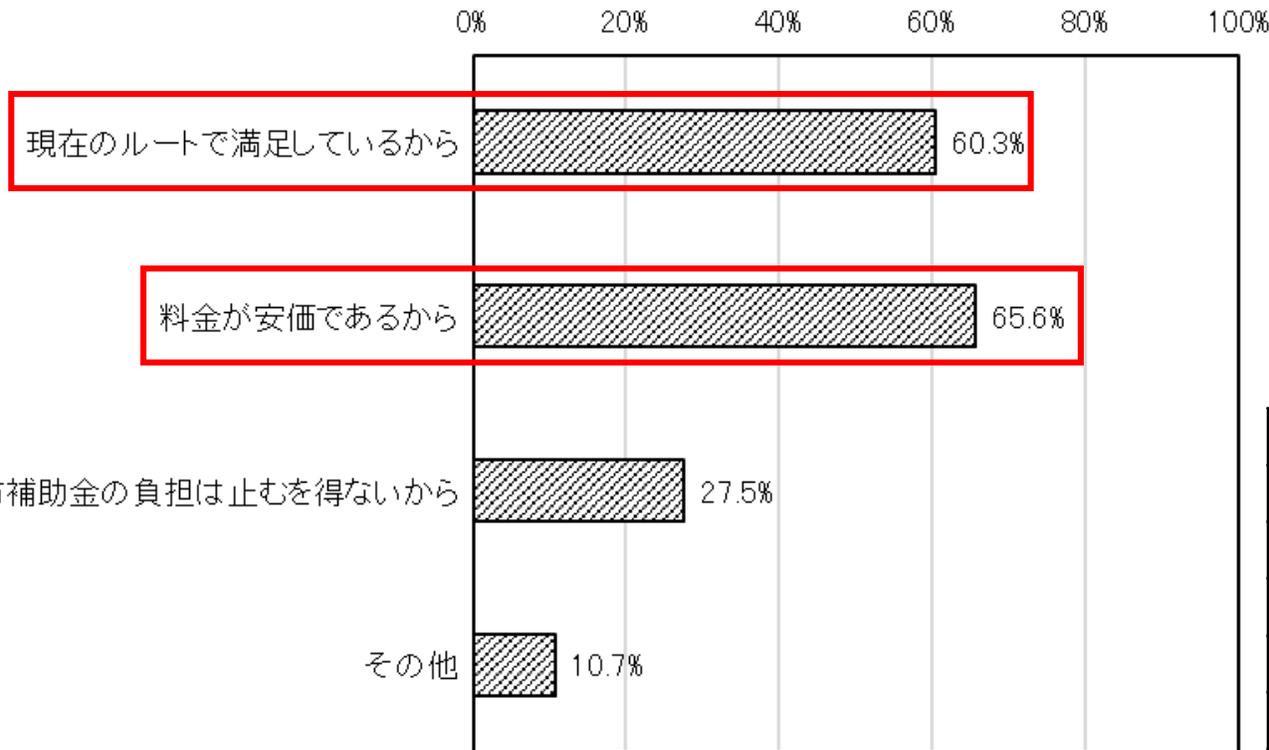
(複数回答可)

問6. レインボーバスに対する考え⑤現状のまま・その他（レインボーバス配布分）

レインボーバスの利用者で現状のままでよいと考える人の理由で最も多いのは、「料金が安価であるから」で、次に「現在のルートで満足しているから」である。

N=131人

MA=215



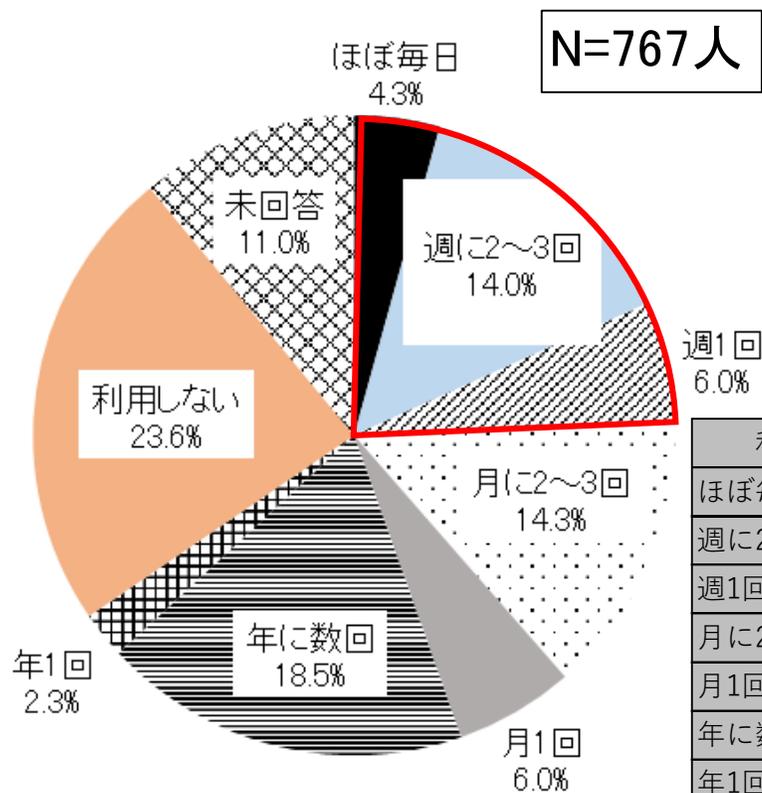
現状のまま・その他	実数（人）	割合
現在のルートで満足しているから	79	60.3%
料金が安価であるから	86	65.6%
ある程度の市補助金の負担は止むを得ないから	36	27.5%
その他	14	10.7%
N	131	

(複数回答可)

問7. 路線バスの利用頻度

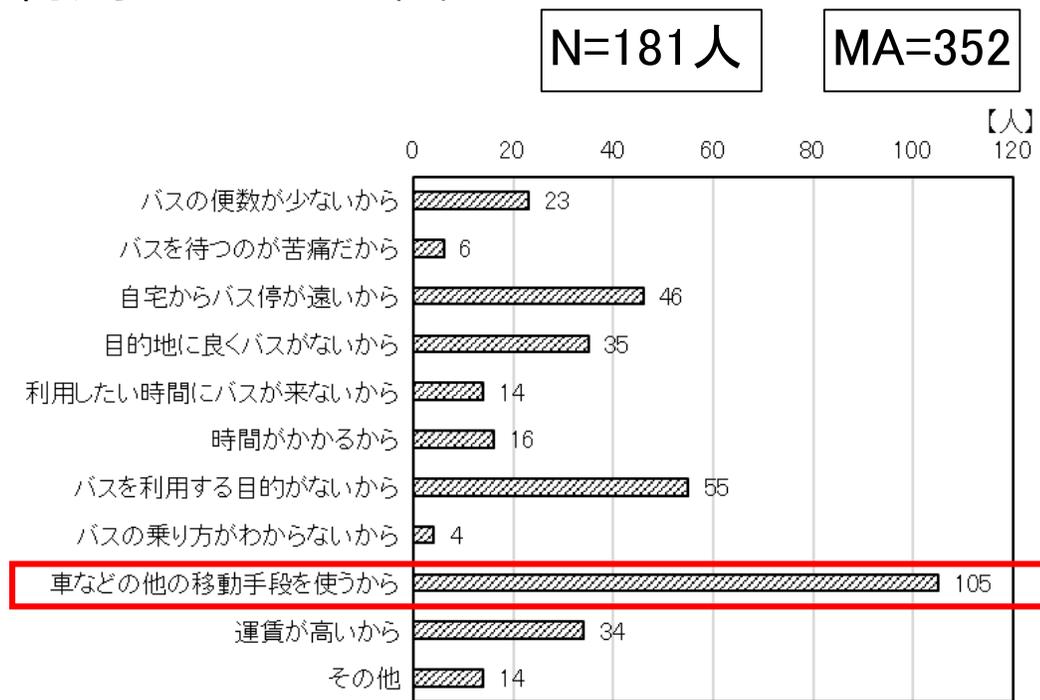
路線バスを週1回以上利用する人は全体の約2割である。
 利用しない理由で最も多いのは、「車などの他の移動手段を使うから」で105人が理由に挙げている。

• 路線バスの利用頻度



利用頻度	実数 (人)	割合
ほぼ毎日	33	4.3%
週に2~3回	107	14.0%
週1回	46	6.0%
月に2~3回	110	14.3%
年に数回	142	18.5%
月1回	46	6.0%
年1回	18	2.3%
利用しない	181	23.6%
未回答	84	11.0%
N	767	

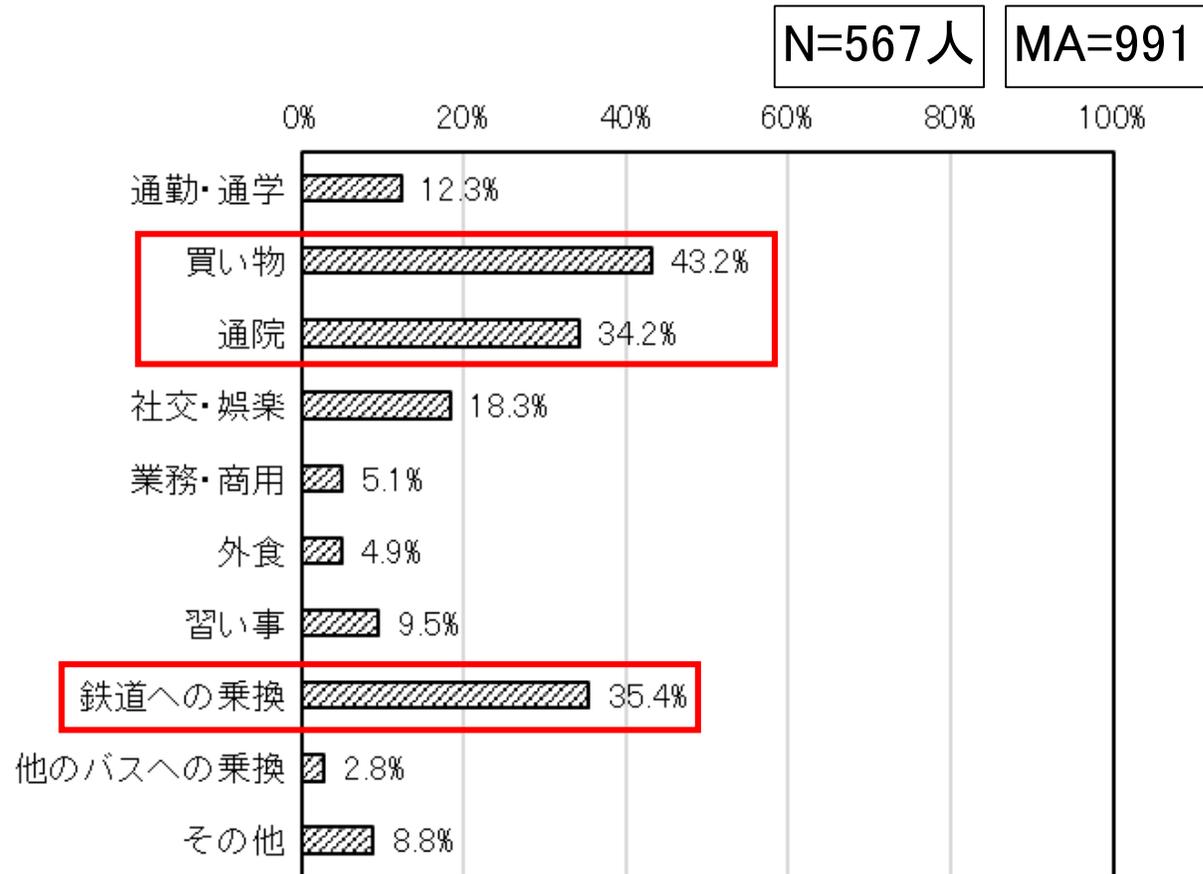
• 利用しない理由



(複数回答可)

問8. 路線バスの利用目的

「買い物」・「通院」を目的に路線バスを利用している人が多い。
「鉄道への乗換」のためにも利用されている。



利用頻度	実数 (人)	割合
通勤・通学	70	12.3%
買い物	245	43.2%
通院	194	34.2%
社交・娯楽	104	18.3%
業務・商用	29	5.1%
外食	28	4.9%
習い事	54	9.5%
鉄道への乗換	201	35.4%
他のバスへの乗換	16	2.8%
その他	50	8.8%
N	567	

(複数回答可)

問9. 東西の交通手段

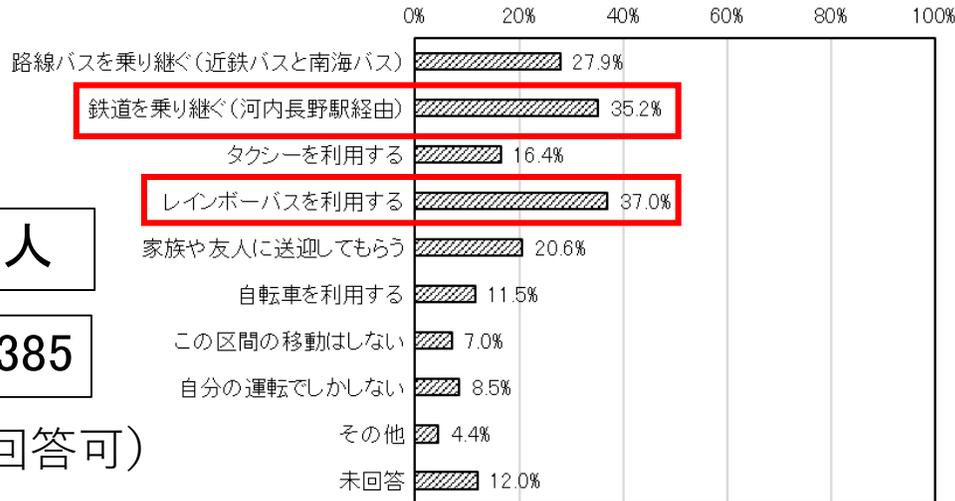
東西の移動手段はレインボーバスの利用と鉄道の乗り継ぎがそれぞれ35%を超えて多く、次に路線バスの乗り継ぎが多くなっている。

全体

N=767人

MA=1,385

(複数回答可)



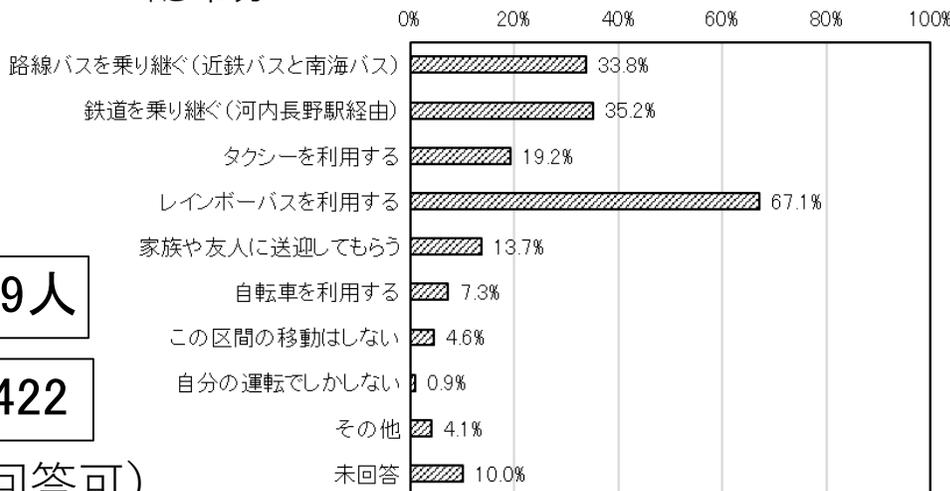
東西の交通手段	実数 (人)	割合
路線バスを乗り継ぐ(近鉄バスと南海バス)	214	27.9%
鉄道を乗り継ぐ(河内長野駅経由)	270	35.2%
タクシーを利用する	126	16.4%
レインボーバスを利用する	284	37.0%
家族や友人に送迎してもらう	158	20.6%
自転車を利用する	88	11.5%
この区間の移動はしない	54	7.0%
自分の運転でしかしない	65	8.5%
その他	34	4.4%
未回答	92	12.0%
N	767	

レインボーバス配布分

N=219人

MA=422

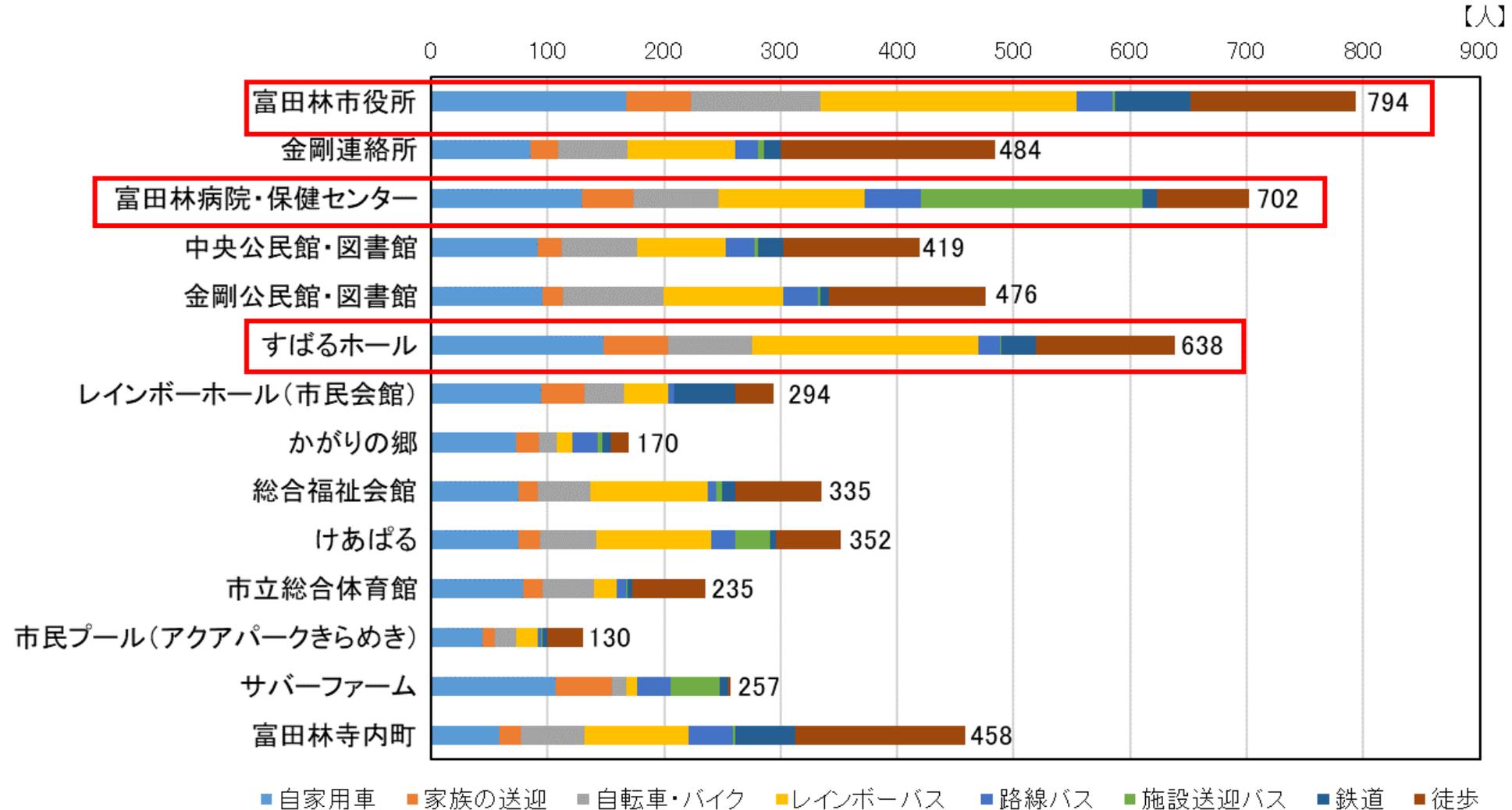
(複数回答可)



東西の交通手段	実数 (人)	割合
路線バスを乗り継ぐ(近鉄バスと南海バス)	74	33.8%
鉄道を乗り継ぐ(河内長野駅経由)	77	35.2%
タクシーを利用する	42	19.2%
レインボーバスを利用する	147	67.1%
家族や友人に送迎してもらう	30	13.7%
自転車を利用する	16	7.3%
この区間の移動はしない	10	4.6%
自分の運転でしかしない	2	0.9%
その他	9	4.1%
未回答	22	10.0%
N	219	

問10. 目的地別交通手段

富田林市役所などの公共施設へは、レインボーバスや自家用車を利用する人が多い。
 富田林病院・保健センターへは施設送迎バスを利用する人が多い。



(複数回答可)

問10. 目的地別交通手段

目的地に関わらず、自家用車、レインボーバス、徒歩が主な交通手段となっている。
 富田林市役所、すばるホール、総合福祉会館、けあばるへの交通手段の約3割をレイン
 ボーバスが占めている。
 一方、富田林病院、サバーファームへは、施設送迎バスの利用が多い。

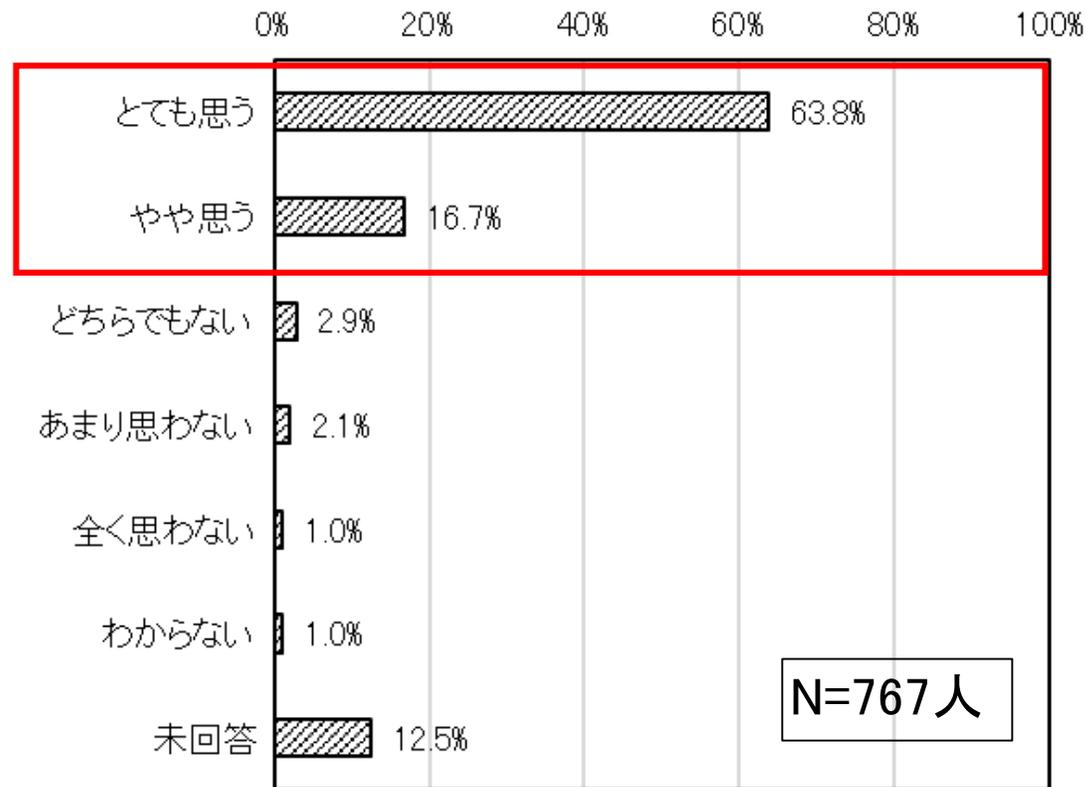
問10	交通手段								計
	自家用車	家族の送迎	自転車・バイク	レインボーバス	路線バス	施設送迎バス	鉄道	徒歩	
1 富田林市役所	21%	7%	14%	28%	4%	0%	8%	18%	100%
2 金剛連絡所	18%	5%	12%	19%	4%	1%	3%	38%	100%
3 富田林病院・保健センター	18%	6%	10%	18%	7%	27%	2%	11%	100%
4 中央公民館・図書館	22%	5%	16%	18%	6%	1%	5%	28%	100%
5 金剛公民館・図書館	20%	4%	18%	22%	6%	0%	1%	28%	100%
6 すばるホール	23%	9%	11%	31%	3%	0%	5%	19%	100%
7 レインボーホール（市民会館）	32%	13%	12%	13%	2%	0%	18%	11%	100%
8 かがりの郷	43%	11%	9%	8%	13%	2%	4%	9%	100%
9 総合福祉会館	22%	5%	14%	30%	2%	1%	3%	22%	100%
10 けあばる	21%	5%	14%	28%	6%	9%	1%	16%	100%
11 市立総合体育館	34%	7%	19%	8%	3%	1%	2%	26%	100%
12 市民プール（アクアパークきらめき）	34%	8%	15%	14%	2%	2%	3%	23%	100%
13 サバーファーム	42%	19%	5%	4%	11%	17%	3%	1%	100%
14 富田林寺内町	13%	4%	12%	20%	8%	0%	11%	32%	100%

（複数回答可）

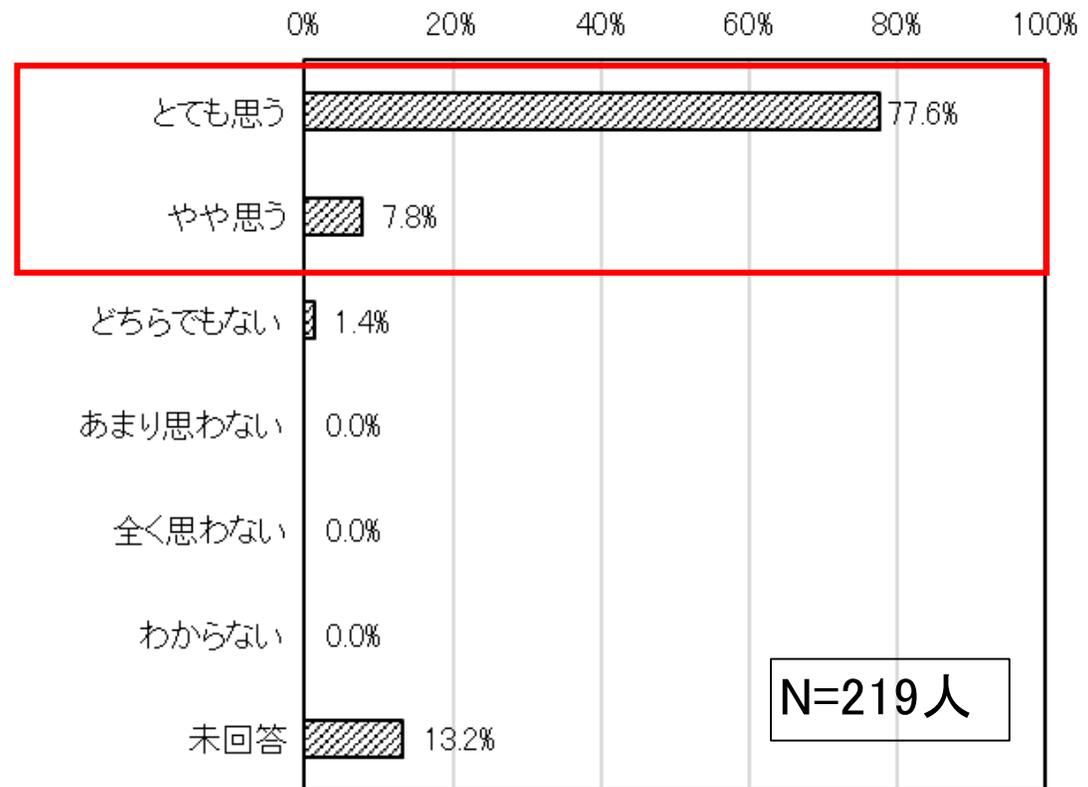
問 1 1. 地域公共交通は地域にとって大切か

約8割の人が地域公共交通は地域にとって大切であると考えている。
レインボーバスを利用している人は、約9割の人が大切であると考えている。

• 全体



• レインボーバス配布分



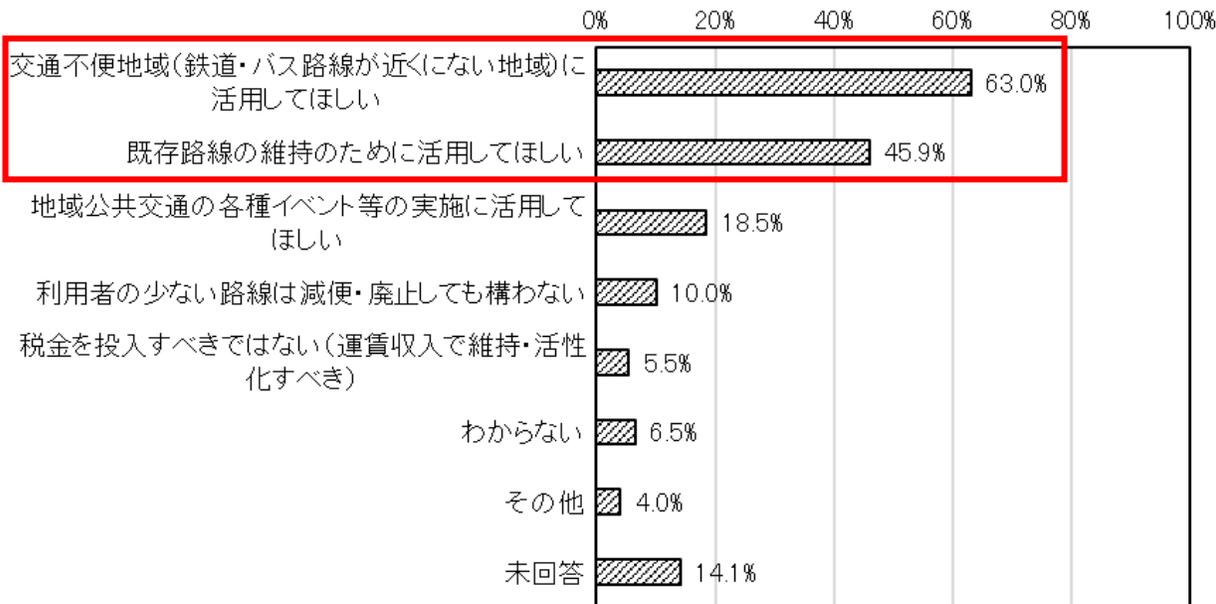
問 1 2. 地域公共交通に対する税金の使い道

最も多い回答は「交通不便地域に活用してほしい」、次に多い回答は「既存路線の維持のために活用してほしい」となっている。

・ 全体

N=767人

MA=1,285

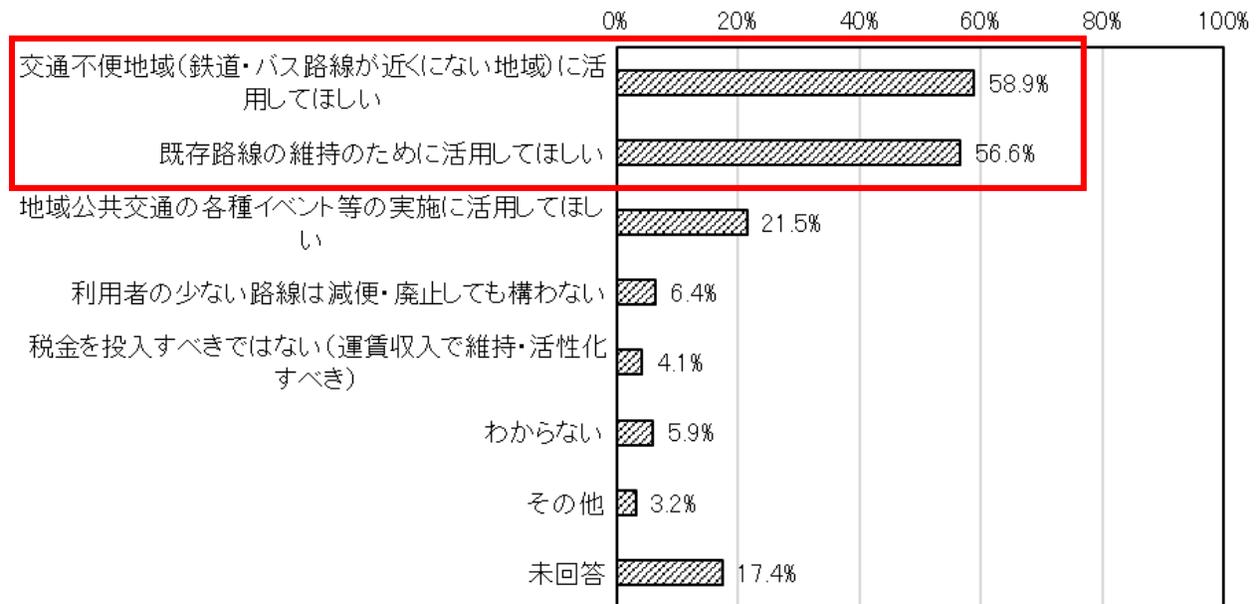


(複数回答可)

・ レインボーバス配布分

N=219人

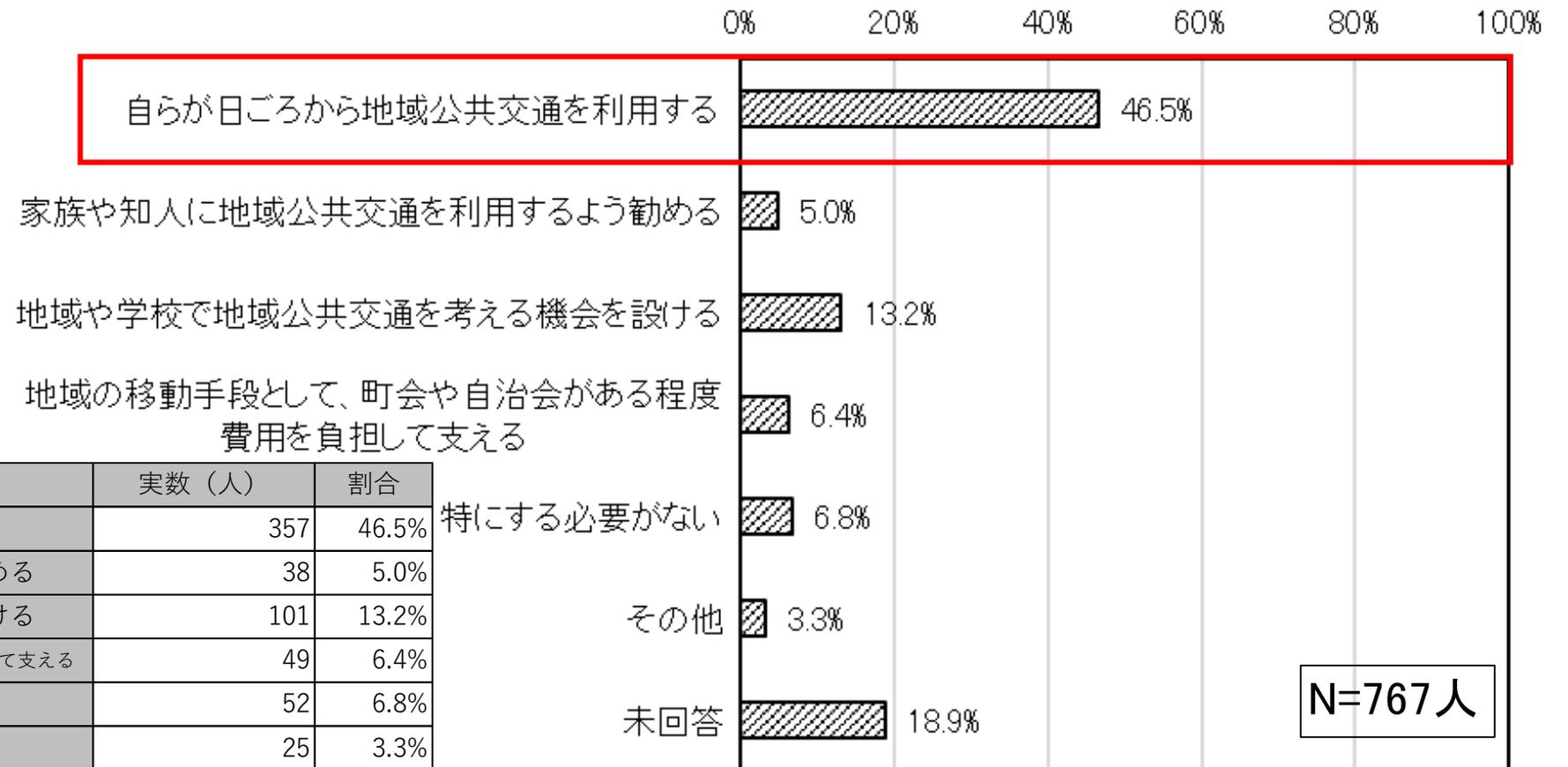
MA=381



(複数回答可)

問 1 3. 地域公共交通維持の方法

約半数が、「自らが日ごろから地域公共交通を利用する」ことが地域公共交通を維持していく上で、最も有効な方法であると考えている。
 また、「地域や学校で地域公共交通を考える機会を設ける」が次に多く、地域公共交通を考える機会が必要である。



N=767人

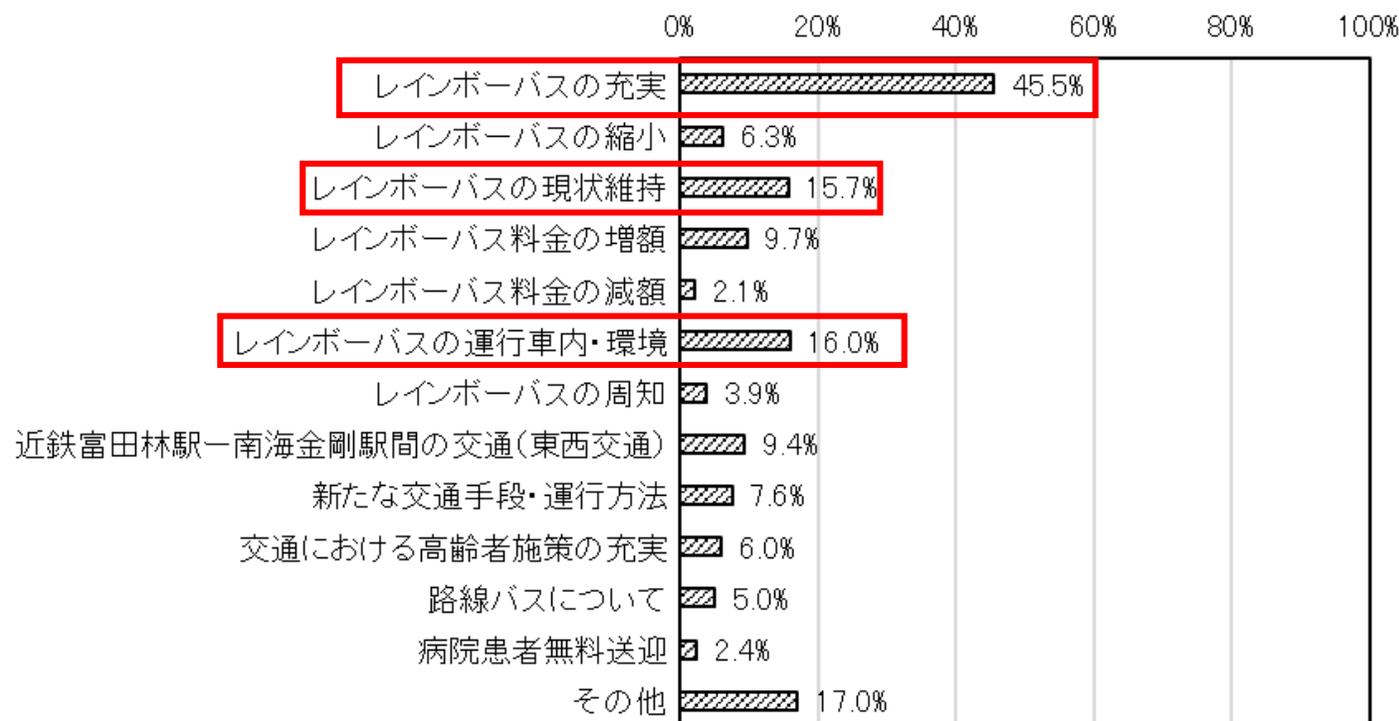
地域公共交通維持の方法	実数 (人)	割合
自らが日ごろから地域公共交通を利用する	357	46.5%
家族や知人に地域公共交通を利用するよう勧める	38	5.0%
地域や学校で地域公共交通を考える機会を設ける	101	13.2%
地域の移動手段として、町会や自治会がある程度費用を負担して支える	49	6.4%
特にする必要がない	52	6.8%
その他	25	3.3%
未回答	145	18.9%
N	767	

問14. 自由記述

レインボーバスや地域公共交通に関する自由記述を下記の通り分類した。
最も多い記述は「レインボーバスの充実」で約5割を占めている。
次に多い記述は「レインボーバスの運行車内・環境」、「レインボーバスの現状維持」であり、ともに約2割を占めている。

N=382人

MA=560



	実数 (人)	割合
レインボーバスの充実	174	45.5%
レインボーバスの縮小	24	6.3%
レインボーバスの現状維持	60	15.7%
レインボーバス料金の増額	37	9.7%
レインボーバス料金の減額	8	2.1%
レインボーバスの運行車内・環境	61	16.0%
レインボーバスの周知	15	3.9%
近鉄富田林駅ー南海金剛駅間の交通 (東西交通)	36	9.4%
新たな交通手段・運行方法	29	7.6%
交通における高齢者施策の充実	23	6.0%
路線バスについて	19	5.0%
病院患者無料送迎	9	2.4%
その他	65	17.0%
N	382	

(複数回答可)

問14. 自由記述 主な意見

レインボーバスに関する自由記述の一部を抜粋・要約しています。

分類	主な意見
レインボーバスの充実	金剛駅や喜志地区、総合体育館、エコール・ロゼ付近にレインボーバスの停留所を作ってほしい。
	レインボーバスの運行ルートを広げて、交通の不便な地域をカバーしてほしい。
	レインボーバスの便数を増やしてほしい。
レインボーバスの縮小	レインボーバスと民間路線バス等が輻輳しているルートは見直した方がいいのではないか。
	レインボーバスの利用者が少ないので、減便等の見直しをする必要があるのではないか。
	レインボーバスは一部の地域しか運行されていないので、公平さを鑑みて廃止したほうがいい。
レインボーバスの現状維持	年齢を重ねると、レインボーバスの利用がより増えることになるので、このまま存続してほしい。
	金剛地区から富田林駅まで行くのに便利だ。現状のまま運行してほしい。
レインボーバス料金の増額	少し運賃が上がっても便数を増やしてくれたら利用しやすくなる。
	高齢者の方は安くし、年齢が若い方は少し割高にしても良いと思う。
レインボーバス料金の減額	高齢者に関しては無料や半額といった料金設定にしてほしい。
	料金を無料にすれば利用者が増加すると思う。
レインボーバスの運行車内・環境	小型車両になり、目的地まで座って行くことができなくなった。
	ダイヤ通りに運行してほしい。
レインボーバスの周知	レインボーバスが十分浸透していないように思う。もっと周知活動をした方がいいのではないか。
	停留所を分かりやすくしてほしい。

問14. 自由記述 主な意見

地域公共交通に関する自由記述の一部を抜粋・要約しています。

分類	主な意見
近鉄富田林駅－南海金剛駅間の交通（東西交通）	近鉄富田林駅－南海金剛駅間の直通便があると使いたい。
	近鉄富田林駅－南海金剛駅間の地域交通は必要だと思う。
新たな交通手段・運行方法	バスが通っていない地域に小回りの利く小型車両に切り替えて、高齢者が外に出やすいようにすればいいのではないか。
	乗り換えの割引補助があればいいのではないか。
交通における高齢者施策の充実	免許返納の特典として、堺市の高齢者のようにどこでも100円で乗れる特典があると嬉しい。
	レインボーバスを廃止するのであれば、高齢者のみ、路線バスの割引もしくは無料パスポートを発行してはどうか。
	タクシー代金の補助をしてほしい。
路線バスについて	レインボーバスを廃止や減便にするなら、近鉄・南海バスの細かい運行を期待したい。
	近鉄・南海の駅に路線バスが相互乗入れ出来て、もっと便利になる様に市が取り組んでほしい。
病院患者無料送迎	富田林病院行きのバスが近くを良く通るので、低料金で利用させてほしい。
	富田林病院とレインボーバスの重複する運行区間を統一し、富田林病院に助成している補助金分をレインボーバスの補助金にあてればどうか。